

第2章
法人報告
事業報告

2019 年度けいじゅヘルスケアシステム方針

平成から新しい時代が変わる。有史以来、最高の人口を記録した日本も平成の半ばからは、人口減時代を迎えてきた。今後、ますます労働人口の減少の波がやってくるに違いない。

加えて、国は「一億総活躍社会」の掛け声の下、働き方改革を推し進める。そこでは、仕事の質を上げ、労働時間を短縮し、ワークライフバランスを推進することがあげられている。これまでと同じ仕事のやり方で時短を実施すれば、病院の業績は、下がることになるのは自明だ。

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

『生産性を向上せよ！』

職員間、部署間で**業務の無駄、重複はないか？** 自らの**本来業務は何か？** その上で、仕事の**タスク・シフティング、タスク・シェアリングはできないのか？** 定常的な仕事は**効率化・ICT化できないのか？** ……すべての改善や変革を自らだけでやるのではない。部署内の仲間、他部署と話し合い、知恵を出し合い、協働する場を作った者が成功するに違いない。

TQM 発表大会（董仙会）

■前期 第18回 2019年9月21日（土）ラピア鹿島 アイリスホール

セッション1 財務の視点 顧客の視点『顧客・職員満足度 100%』 座長：恵寿総合病院 診療部長 山崎 雅英

部署	テーマ
本部・本院 婦人科・健康管理センター・サービス課・医療秘書課	新 女性健診プロジェクト
1位 恵寿金沢病院管理課・ドックセンター ローレルクリニック・本院 6東・HCU・5-5F 訪問看護ステーション MSW	ドック食改善による顧客満足度向上 ～新規顧客を常連顧客へ～ 腹膜透析患者を安全・安心して受け入れるための業務フローを作る
本院 6西・6東・5西・5-3F・5-5F・MSW・PT・OT・ST・臨床栄養課・薬剤課	退院支援の業務フローの見直し ～タスクシェアの実践～
恵寿鳩ヶ丘	さらなるノーリフティング介護の定着に向けて
本院 放射線課	検診乳腺エコー運用に向けての取り組み

セッション2 業務の視点『生産性の向上 事業競争力の強化』 座長：恵寿金沢病院人間ドックセンター 副センター長 森 清男

部署	テーマ
1位 恵寿金沢病院 褥瘡対策委員会	スキン-ケアへの取り組みについて ～ケアの向上に向けて～
本院 6西・6東・5-5F・MSW・介護事業統括部門	病院-施設間での情報共有シートの活用
本院 リハビリテーション部	医療から介護への効率的な情報共有のため、申し送り表を見直す ～リハビリテーション退院時報告書の改定～
鶴友苑	手書きしている書類の整理とIT化の検証 ～「生産性を向上せよ」にチャレンジしてます～
ほのぼの	業務内容の見直しと効率化 ～ICTの活用～
恵寿みおや・けいじゅー本杉	業務を見直し、手書きしている書類の整理とIT化の検証

セッション3 業務と学習と成長の視点『データ経営の確立』 座長：恵寿総合病院 診療副部長 西澤 永晃

部署	テーマ
恵寿金沢病院 薬剤課	服薬支援の仕組みづくり
本院 手術室	手術室の時間内稼働率 UP にむけてデータを活用する
1位 本院 医事課・管理課・医療秘書課・看護部	データ集約、共有できるデータベースの作成
本院 医療安全管理課	医療安全リスクマネージャーの役割遂行 ～リスクマネジメント部会活動の見直し～
本部 財務部 財務部資財課	物品点数の削減 ～共同購入活用～

■後期 第19回 2020年3月31日（火）（※新型コロナウイルス感染拡大により発表大会は中止にて書類審査）

『財務の視点』

部署	テーマ
本院 臨床検査課	生理機能検査の生産性向上への取り組み ～ホルター心電図編～
けいじゅー本杉	地域にアピール

『顧客の視点』

部署	テーマ
1位 本院 地域連携課	紹介件数増加を目指して ～紹介患者満足度調査の実施と新たな取り組み～
本院 看護部 外来	また来たくなる外来を目指して
本院 サービス課	受付の生産性を上げる ～業務の効率化～
恵寿金沢病院 臨床検査課	生理機能検査説明による新たな取り組み ～患者の理解度・満足度の向上～
恵寿金沢病院 医事課	利用者目線での受付・会計をめざして
恵寿金沢病院 地域連携課・理学療法課・作業療法課・臨床栄養課	入院前から退院後までの支援の統一化を目指す ～退院支援シートの作製、運用について～
恵寿金沢病院 放射線課	造影 CT 検査を安全に行うために
本院 薬剤課	薬剤管理指導件数を増やそう -服薬指導支援ソフト「SATCHI」使用による評価-
本部 総務部・情報部・企画部	職員向けポータルサイトの利用促進するために

『業務プロセスの視点』

部署	テーマ
本院 臨床工学課	医療機関管理体制のリフォーム・輸血ポンプ管理の最適化
2位 本院 看護部 4東・4西・リハビリセンター	リハビリスタッフへの吸痰技術習得への取り組み
3位 本院 内視鏡課	全大腸内視鏡検査の取り組み ～予約枠の見直し～

『学習と成長の視点』

部署	テーマ
和光苑	外国人スタッフがいきいきと働ける魅力ある職場作り
本院 看護部クリニカルラダー	クリニカルラダーで看護実践能力教育の仕組みを再構築
ほのぼの・いこい・みおや	介護技術スペシャリストの育成 ～介護技能グランプリ出場を目指して～
本院 医事課・本部 財務部経理課	データの有用性を高める

事例研究大会（徳充会）

■大会テーマ『生産性を向上せよ ～一人ひとりの知識と資質向上～』

◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：苑長賞 ★：局長賞

（※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発表大会は中止）

第1部

所属 発表者	タイトル
石川県精育園 小林 禎弥、谷 良観、栃木 和美、馬場 留美	深化する
石川県精育園 森本 郁、田口 茂美、大町 みずき	本人のものさしで考える支援を目指して
石川県精育園 大屋 寛、田中 晴美、岡田 甲一、黒詰 好美	作業環境の改善と青空市場改修による生産性の向上
石川県精育園 村田 和由、他7名	ひとりて出来るよ ～集中して作業に取り組める環境づくり～
石川県精育園 加藤 大輔、増山 聡、大谷 英隆	グループ名も「ゆったり」～ゆったり班の活動報告～
ローレルハイツ恵寿 中西 直美、宮田 竜誠、石井 久美子	外出支援 ～全利用者の参加を目指して～
ローレルハイツ恵寿 越岡 広美、西住 純子、浜崎 久代、林 ひとみ	愛猫とのんびり自宅で生活したい ～ケアマネとの連携の先に～
ローレルハイツ恵寿 石黒 美咲、山中 麻緒	ipadを導入して
◎ふれあいの里 青木 崇、曾我 百華、西川 繁子、高森 充子、石野 精一	ふれ愛ルームの始まり ～「楽しい！」「またしたい！」を増やすために～
青山ライフサポートセンター 折坂 香	S T評価を食事支援に活かす
穴水ライフサポートセンター 浅田 恵果	うつからの脱却
本部事務局 山下 靖一郎、龍澤 徳樹	業務効率化・省力化について ～総務課4つの改善事例～

第2部

所属 発表者	タイトル
青山ライフサポートセンター 青木 奈美	本格エステ体験 ～心も体もピッカピカ！～
青山ライフサポートセンター 井上 清美	家っていうもんは何とていこや ～自宅への外出支援～
青山ライフサポートセンター 山口 雅大	自力摂取向上に向けて ～職員の関りの工夫で変わることに～
○青山ライフサポートセンター 小石 薫	ノーマットに向けての支援 ～移乗プロジェクトの取り組み～
エレガントなぎの浦 西尾 翔、横山 陽子、坂口 詩織、向山 亜友美、寺西 恵美	ショートステイ荷物チェック ～タブレット化へ～
エレガントなぎの浦 岡野 裕美、鈴木 彩、堀 雅季、田中 恵利子、高橋 寿季	個々に合わせたトミ茶作り ～ONE TEAMで統一しよう～
エレガントなぎの浦 畑 幸恵、柿島 栄美子、順毛 沙弥香	創作レクリエーションについて
エレガントなぎの浦 鶴田 民子	口腔ケアの取り組みについて
エレガントなぎの浦 矢部 祥平、他6名	まんて痒いGEN ～洗浄液使用による掻痒感の軽減を目指して～
穴水ライフサポートセンター 前川 芳紀	ノーマットの定着
☆エレガントたつるはま 橋本 奈緒子、入山 外美恵、塚 真理子	身体拘束廃止の実現に向けて
もみの木苑 亀井 真巳、津崎 智美、柿島 善浩、吉田 摩紀	制作支援 ～利用者の意欲向上を実現するために～

第3部

所属 発表者	タイトル
青山リハビリテーションセンター 庵 光世	福祉サービス提供の在り方を考える ～生産性を学ぶ～
青山リハビリテーションセンター 宿谷 麟太郎	FIM 評価を実践 ～利用者さんの変化を捉える～
穴水ライフサポートセンター 熊野 里美、坂口 奈保美	健康支援課の業務改善 ～効率化を目指して～
穴水ライフサポートセンター 浦上 智和、藤井 律子	ケアガイドライン委員会の取り組み ～プライバシーは守られているのか～
穴水ライフサポートセンター 馬場 夏実	孫とスキップ、妻と一緒に歩くことができたなら… ～応用歩行練習を通じて～
障害者就業・生活支援センター 山本 愛	就労支援に携わって ～必要な支援を行うための業務改善を図る～
ワークセンター田鶴浜 守友 宏輔	洗濯事業におけるリース品の導入とその経過～安心・安定供給を目指して～
◎自立ホームけいじゅ 前田 加余子、岡峰 悦子、田中 こず恵	強度行動障害の方が地域で生活していくために ～卒業後1年目 相談支援専門員としての関わり～
★エレガントなぎの浦 受川 いづみ、大坂 直美、八島 舞子	日々業務改善
エレガントたつるはま 新 浩明、北原 はるみ	夢実現プロジェクトの取り組み
ふれあいの里 中森 きみえ、出村 陽子、谷口 美帆、辻 美香	デイサービスでより楽しい時間を求め ～嬉し恥ずかし初めての販売活動～
○健康増進センターアスロン 谷口 舞、西田 さおり、浜森 希	ストレッチ教室を担当する

第2章 法人方針・事業報告

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2019.4.2	希望胸に出発 新任式	北國新聞・北陸中日新聞
2019.5.9	プチナース・ふれあい看護体験	北國新聞・北陸中日新聞
2019.5.29	恵寿総合病院 鎌田新病院長に聞く	北陸中日新聞
2019.6.7	医師ら、診察後にバンド	北陸中日新聞
2019.6.29	AI 問診を北陸初導入	北國新聞
2019.6.30	初診患者に AI が問診	読売新聞
2019.7.3	恵寿総合病院、AI 問診導入	日本経済新聞
2019.7.3	恵寿こころの相談室	北國新聞・北陸中日新聞
2019.7.19	AI 問診 恵寿総合病院が導入	北陸中日新聞
2019.7.19	アイスで脳を活性化「溶けないアイス」	北國新聞・北陸中日新聞
2019.8.8	喀痰吸引研修センター開講式	北國新聞・北陸中日新聞
2019.9.22	生産性 向上させるには TQM 発表大会	北陸中日新聞
2019.9.30	恵寿総合病院野球部 七尾市長杯優勝	北國新聞
2019.10.3	脳活アイス通信販売開始	北國新聞
2019.10.4	特定行為研修修了式	北國新聞
2019.10.7	特定行為研修修了式	北陸中日新聞
2019.10.15	溶けない「脳活アイス」をネット販売	日本経済新聞
2019.11.13	歩行改善で健康「復活」	北國新聞・北陸中日新聞
2019.11.16	歩行改善、健康「Foot 活」	読売新聞
2019.11.17	羽咋高校医志未来塾セミナー	北國新聞
2019.11.19	運動で歩きかた改善し介護予防に	NHK NEWS WEB
2019.11.28	車いすの目線で駅撮影	朝日新聞
2019.12.26	病のリスク 遺伝子解析	北國新聞・北陸中日新聞
2020.1.7	けいじゅヘルスケアシステム 新年互礼会	北國新聞・北陸中日新聞
2020.1.11	病気のリスク 遺伝子解析で	朝日新聞
2020.1.11	第 48 回医療功労賞 進藤浩美 董仙会本部長が受賞	読売新聞
2020.1.11	病院で QR コード決済	北國新聞
2020.1.15	透析情報 スマホで閲覧	北國新聞
2020.1.19	新サービス 透析患者へネットで情報	北陸中日新聞
2020.3.1	新型コロナに注意 院内感染を防ぐ	北國新聞
2020.3.8	健康経営優良法人 3 年連続で認定	北國新聞
2020.3.11	董仙会 健康優良法人（ホワイト 500）に 3 年連続認定	北陸中日新聞
2020.3.12	職員の子ども受け入れ	北國新聞
2020.3.13	馬氏返礼 マスク届く	北國新聞・北陸中日新聞
2020.3.14	丈夫がいいね 広がる認定制度㊦	北國新聞
2020.3.15	丈夫がいいね 広がる認定制度㊧	北國新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2019.5.16	公益的な取り組み（地域貢献事業）買い物支援バス	北国新聞
2019.5.17	公益的な取り組み（地域貢献事業）買い物支援バス	北陸中日新聞
2019.5.18	穴水身障福祉協 ボッチャ体験（穴水ライフ）職員講師	北陸中日新聞、北國新聞
2019.6	穴水身障福祉協 ボッチャ体験（穴水ライフ）職員講師	穴水広報
2019.7.17	お出かけランチ	北陸中日新聞、北國新聞
2019.7.24	福祉介護の就職フェア（徳充会）	北陸中日新聞
2019.8.12	夏祭り	北陸中日新聞、北國新聞
2019.9.15	健康麻雀大会（穴水ライフ）	北陸中日新聞
2019.9.23	第2回北信越ボッチャオープン大会（穴水ライフ）	北國新聞・北陸中日新聞
2019.9.17	能登島小学校交流～車椅子体験～（青山彩光苑）	七尾市 Facebook、北陸中日新聞
2019.9.29	石川県リハビリテーション風船バレーボール大会（青山彩光苑）	読売新聞
2019.10.5	総合防火訓練	北陸中日新聞
2019.10.16	精育園利用者（山下祐樹氏）作品展示（のと共栄信用金庫）	北陸中日新聞
2019.10.22	高階地区ソフトボール交流大会（青山彩光苑）	北陸中日新聞
2019.10.29	福祉交流授業（青山彩光苑）	北陸中日新聞
2019.11.7	精育園祭りバザー出品呼びかけ（精育園保護者会）	北陸中日新聞
2019.11.10	精育園祭	北陸中日新聞
2019.11.21	不審者対応訓練（青山彩光苑）	北陸中日新聞、北國新聞
2019.11.12	Foot 活の取組について（ローレルハイツ恵寿）	北國新聞、北陸中日新聞
2019.11.20	みそぎ防災フェス	北陸中日新聞、北國新聞
2019.11.26	青山彩光苑利用者桶屋善一氏の冊子展示会（恵寿総合病院）	北陸中日新聞、北國新聞、朝日新聞
2019.11.27	桜の木植樹式（青山彩光苑）	北陸中日新聞、北國新聞
2019.12.1	落語会 in ローレル（ローレルハイツ恵寿）	北陸中日新聞
2019.12.6	障害者週間啓発活動（穴水ライフ）	北陸中日新聞
2019.12.8	障害者週間イベント（青山彩光苑・穴水ライフ）	北陸中日新聞、北國新聞
2020.1.23	青山彩光苑利用者桶屋善一氏の冊子紹介（青山彩光苑）	毎日新聞
2020.3.11	入居者 100 歳の祝い（ローレルハイツ恵寿）	北陸中日新聞
2020.3.16	七尾鹿島防火優良従業員表彰 梶本雅浩（青山彩光苑）	七鹿防災広報

来訪者一覧（董仙会）

日付	来訪者	見学内容
2019.4.9	韓国全羅北道保健診療所職員訪問団（44名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.4.16	奈良県長地域医療連携課	けいじゅヘルスケアシステム
2019.5.9	社会医療法人博愛会菅間記念病院（事務局長他、計5名）	けいじゅサービスセンター、SPDシステム
2019.5.9	中井生活経済研究所	けいじゅサービスセンター、SPDシステム
2019.5.10	厚生連 三条総合病院（病院長1名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.5.30	社会医療法人財団 石心会（5名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.6.6	医療法人弘英会琵琶湖大橋病院（理事長他、計13名）	けいじゅヘルスケアシステム、透析センター
2019.6.14	特定医療法人フェニックス（会長他、計6名）	電子カルテ、けいじゅサービスセンター
2019.6.29	金沢伝統芸能を考える会（5名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.7.18	鈴鹿回生病院（2名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.8.16	全国病院経営管理学会 経営企画委員会（8名）	けいじゅヘルスケアシステム、地域連携
2019.8.19	京都第二赤十字病院（5名）	ユニバーサル外来、建築
2019.8.22	内閣官房日本経済再生総合事務局（5名）	ユニバーサル外来、電子カルテシステム
2019.8.22	東京海上日動火災保険株式会社（2名）	ユニバーサル外来、電子カルテシステム
2019.9.3	一般社団法人 日本建築学会（11名）	けいじゅヘルスケアシステム、建築
2019.9.10	医療法人和幸会 阪奈中央病院（理事長他、計8名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.9.13	加賀市医療センター（5名）	AI問診システム
2019.9.13	社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院（2名）	電子カルテシステム、建築
2019.9.25	オレンジホームケアクリニック（4名）	AI問診システム
2019.9.26	白山市林中地区社会福祉協議会（17名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.10.3	医療法人さわらび会 福祉村病院（理事長他、7名）	セントラルキッチン、給食
2019.10.3	株式会社麻生 飯塚病院（3名）	セントラルキッチン、給食
2019.10.3	社会医療法人 高清会 高井病院（5名）	恵寿総合病院
2019.10.17	地域中核病院研究会事務局 コンタクス（9名）	ユニバーサル外来
2019.10.23	武田薬品工業（16名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.11.8	VHJ 整形部会 in 恵寿	働き方改革
2019.11.16	羽咋高校（28名）	ユニバーサル外来
2019.11.28	社会医療法人 頌徳会 日野病院 事務部（3名）	電子カルテ
2019.11.28	加賀市医療センター 医療支援室（2名）	ユニバーサル外来、医療事務作業補助者
2020.1.21	彦根市立病院・彦根保健所（病院長他、計4名）	外国人患者の受け入れ
2020.1.22	福井県済生会病院（2名）	事務職員の人材育成

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2019.5.22	和倉温泉加賀屋（雪月花歌劇団・石黒サンペイ）	青山彩光苑 慰問交流
2019.6.14	国分町老人会	青山彩光苑 施設説明
2019.7.4	羽咋市社会福祉協議会	石川県精育園 見学
2019.7.11	ジャノメシン工業(株)金沢支店	青山彩光苑 ミシン寄贈
2019.7.11	石川県田鶴浜高等学校衛生看護科専攻科（教員 2 名、2 年生 35 名）	青山彩光苑 見学
2019.7.25	輪島市町野地区社会福祉協議会 10 名	ローレル 施設の概要と運用 見学
2019.9.24	七尾市立朝日小学校 4 年生	青山彩光苑 福祉体験
2019.9.26	白山市林中地区社会福祉協議会 20 名	ローレル 施設の概要と運用 見学
2019.10.2	ドラゴンゲートプロレス	青山彩光苑 利用者交流
2019.11.19	社会福祉法人南陽園（サービス管理責任者・介護主任）8 名	施設見学 (青山ライフ・リハ・精育園・穴水ライフ)

■ 継続的基本方針

法人が社会に選ばれ続けるために、「石川県と言えば恵寿である」と全国から評価される法人を創ってきた。しかし、そのことを恵寿の膝下である地域住民に理解されているだろうか？その前に職員は理解しているのだろうか？職員は、恵寿フィロソフィに則り素晴らしい恵寿、一流の恵寿となるために常に創造して欲しい。そして新たな恵寿ブランドを創って行かなければならない。

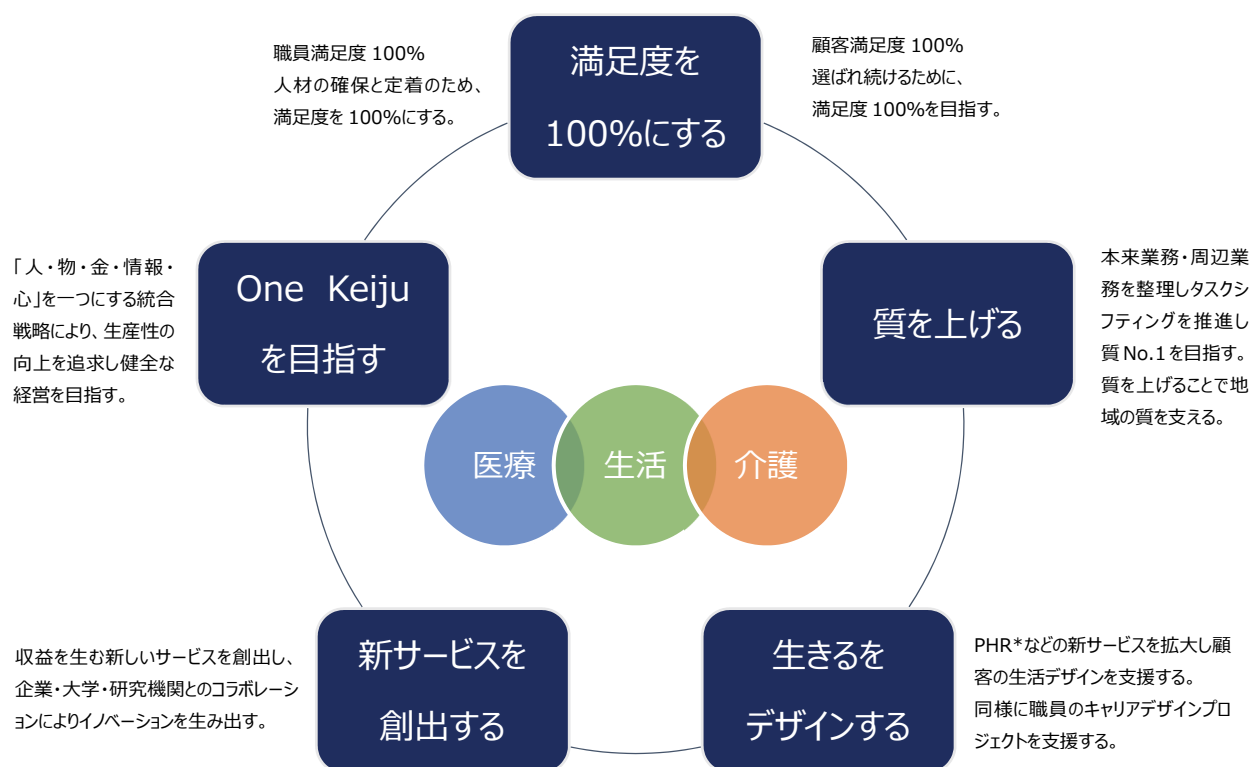
□ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

【チャレンジ精神を持ち常に創造する】

今、顧客の価値観が変わってきている。これに対応して私たちは新しい価値を見出していかなければならない。かかりたい病院、家族を利用させたい施設を創り出すことに邁進しなければならない。今までのサービスを全く新しいものに作り直すくらいの気概が必要である。

【恵寿ブランドの創出】（ブランディング）

法人は、これから ①満足度を100%にする ②One Keijuを目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる ⑤新サービスを創出する 以上を実現し、新たな恵寿ブランドを創って行く。



PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質(QOL)維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

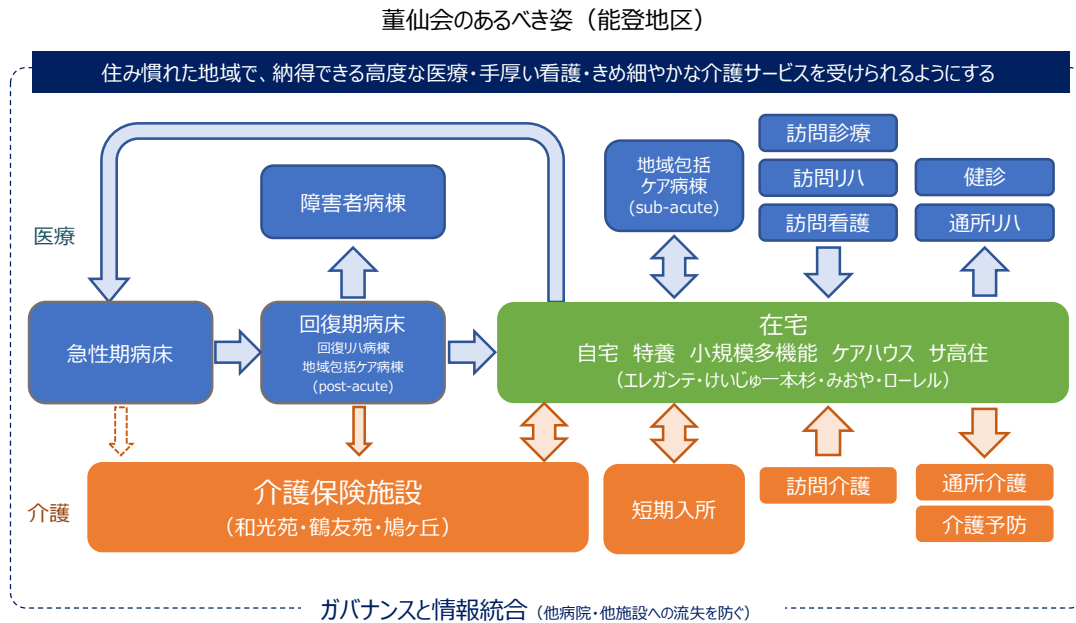
■ 法人のあるべき姿・顧客のあるべき流れ

基本戦略、施策を達成する前提として、能登地域・金沢地域の方針・顧客のあるべき流れを図に示す。すべての職員が理解し、業務を遂行しなければならない。

□ 能登地区方針

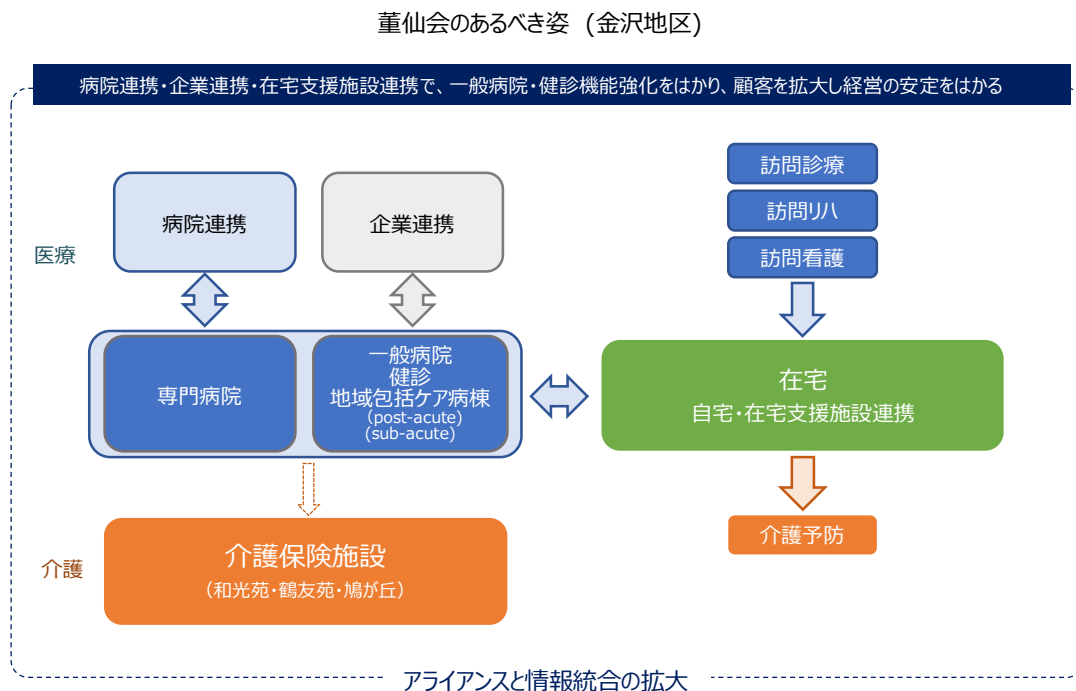
住み慣れた地域で、納得できる高度な医療・手厚い看護・きめ細かな介護サービスを受けられるようにする。

職員は既存の施設・サービスを最大限に活用し顧客の流出を防ぎ、けいじゅヘルスケアシステム内で完結するようにガバナンスと情報統合を強化する。



□ 金沢地区方針

病院連携・企業連携・在宅支援施設連携で、一般病院・健診機能強化をはかり、顧客を拡大し経営の安定をはかる。



■ 継続的基本方針を実現する方法

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT 分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら 3 年間で目指す将来像に到達することを目標とする。



■ 継続的基本方針の実施計画

2020 年度までの 3 カ年実施計画を以下に示す。

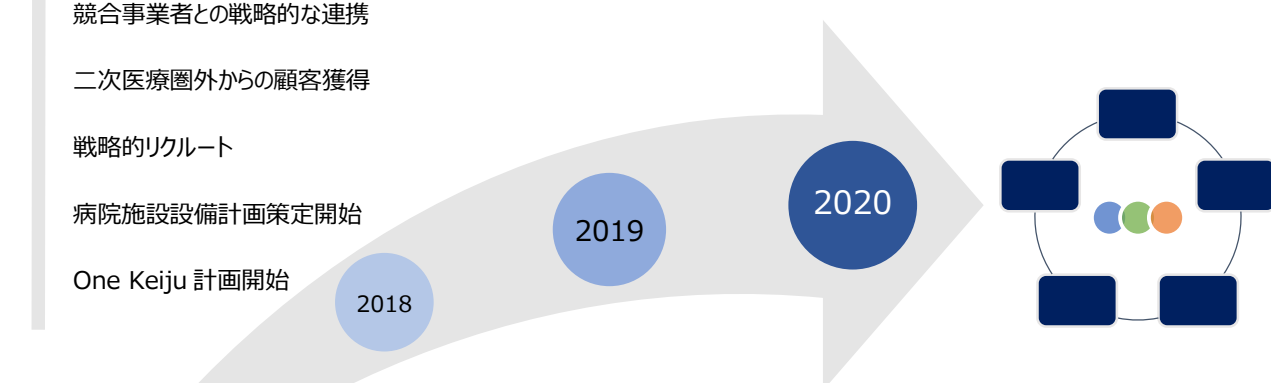
初年度は主に改善・克服戦略、次年度は積極・差別化戦略を遂行し、3 年後の目指す将来像を完成させる。

2018（改善・克服） 「創れ、恵寿ハリュー！」 社会構造の変化への対応を 見据え、職員と顧客が共有 できる価値を創造する

- 恵寿式チーム医療の完成
- 職員満足度 100%達成
- データ経営の確立
- 高度医療・専門医療の強化
- PHR 事業の拡大
- 顧客に選ばれる仕組みづくり
- 他病院・施設への流出防止
- 競合事業者との戦略的な連携
- 二次医療圏外からの顧客獲得
- 戦略的リクルート
- 病院施設設備計画策定開始
- One Keiju 計画開始

2020 「経営品質の高さ」 × 「顧客による社会的評価」 恵寿ブランド力の向上

- ①満足度を 100%にする
 - ②One Keiju をつくる
 - ③生きるをデザインする
 - ④質を上げる
 - ⑤新サービスを創出する
- 上記 5 施策の完成
→「石川=恵寿」の完成



2019（積極・差別化）

- 病院・施設の設備計画の完成
- 七尾+金沢 One Keiju（統合戦略）による
経営資源の最大活用
- 顧客満足度 100%達成
- サービスの質の進化によるシェア拡大
- 産学連携コラボレーションによるサービス開発

■ 継続的基本方針 戦略目標



2020年度までに継続的基本方針を達成するための5施策

- ①満足度を100%にする
- ②One Keijuを目指す
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する に対する具体的な戦略目標例を示す

財務の視点

1. 顧客の生涯健康維持をサポート

リテンションマーケティングを行い既存利用者との結びつきを強めるとともに、新規利用者の獲得を行う

患者、利用者とのつながりを強化するためにPHRを拡充する

2. 将来にわたる事業の発展、地域への貢献

経営の健全性を維持するため、生産性を向上させ、医業収入の黒字化、医業外収入の増加を目指す

サービスの質で競合を超越し、金沢での拡大、能登での充実を図る。人件費率（医療、介護）の適正化を行う

顧客の視点

1. 顧客満足度 100%

顧客の価値観の変化に則した魅力ある医療・介護施設群へとゼロからの転換を図り満足度 100%を目指す

2. 職員満足度 100%

職員の健康と幸せを築くために「健康経営×キャリアデザイン・プロジェクト」を推し進め満足度 100%を目指す

3. 患寿ブランドの創出

選ばれ続けるために、「七尾=患寿」、「石川=患寿」となるようなコーポレートアイデンティティ=ブランディングの完成を目指す

4. “患寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

徹底した顧客満足度向上のためにサービスをいつでも安心して受けられるようにする

「どうすれば利用してもらえるのか」「継続的な利用をどうやって実現するか」をデザイン思考で完成させる

5. 専門技術・知識、現場力の蓄積 成長・やりがいの実感

医師・看護師・その他医療技術職の専門性を発揮するためにタスクシフティングやキャリアチェンジを推進する

業務プロセスの視点

1. 顧客参画型患寿式チーム医療の完成

既存サービス+患者利用者の参画、職員のお互い様意識を醸成（多様性理解）し合う環境作りを行う

2. 事業競争力の強化・差別化

急性期機能・高度医療（救急・がん・脳卒中・心臓・呼吸器外科・整形外科・健診）を強化するために医師の招聘を（3年後100名体制）行い患者・利用者の流出を防ぐ

3. 経営資源の効果的・効率的な運用

経営資源「人・物・金・情報・心」の効率的な運用を行い、生産性の向上を目指す
限られた人的資源を最大限に活かす統合戦略を行い遠隔診療・テレワークなどの働き方改革を行う

4. Only1、No1 領域の確立

患寿の絶対的な強みである「医療介護統合電子カルテ」、「セントラルキッチン」、「コールセンター」、「樂のり君」、「ユニバーサル外来」、「産科」、「家庭医療」、「無痛分娩」、「内視鏡」、「血液内科」、「乳腺外科」、「呼吸器内科」、「心臓血管外科」、「糖尿病内科」、「回復期リハビリテーション」を確立し収益事業化する

5. データ経営の確立・PDCA 遂行

原価管理、DPC ベンチマーキング、Quality Indicator などデータに基づく経営を確立する

6. 将来への事業基盤の構築

老健施設、金沢病院の改修計画、病床・病棟の再編・医療機器、IT 投資計画等 BCM として病院・施設設備計画を完成させる

7. 収益を生むイノベーションの創出

企業・大学・研究機関との AI、IoT を利活用した「既存サービス×医療」コラボレーションによる収益を生む新たなサービス開発を行う

学習と成長の視点

1. 事業環境の精緻な分析と情報共有

競合環境やマーケットシェアを分析し、既存顧客の流出防止と新規獲得を行う

2. BSC 目標管理の徹底革新とチャレンジ精神の醸成

全ての職員が、法人のミッション・ビジョン・戦略テーマを納得・理解し BSC の定着と PDCA を推進する
職員自身が自発的に考え行動することを目指す

3. 戦略的リクルート・連携・協働

戦略的なブランディング、広報による優秀な医師・看護師・介護職獲得のためのリクルート活動を行う
競合事業者との（急性期リハビリ、介護事業者、小児科、婦人科、精神、歯科）Win-Win な連携を行う

4. 人材マネジメントの強化

キャリアビジョンの提示、全体最適を図る人材育成を組織を挙げて取り組み次世代リーダーを育成する

董仙会本部

- 常務理事 ■ 本部長
 神野 厚美 進藤 浩美

■ 2019 年度のトピックス、実績

下記が、新たな取り組みである。

生産性を上げる	給与・人事システムの入替、AI 問診開始 RPA 導入準備、介護事業所に送りシステム導入
顧客満足度を上げる	健康優良法人ホワイト 500 認定、365 日 24 時間けいじゅ心の相談室・遠隔産業医面接開設、年次有給休暇 5 日間取得 100%、けいじゅ健康保険組合の設立、介護事業所のわかりやすい名称変更、ポータルサイトリニューアル、バーコード決済実施
only1 No1 の確立	脳活アイス、遺伝子解析サービスの販売開始、Foot 活プロジェクト開始、情報部・企画部・生活支援部も ISO 取得

■ 事業報告

- ① 本院と鳩ヶ丘の収益増が、法人の利益に貢献した。
- ② 投資としては、サーバー更新、パックス入替、給与・人事システムの入替をした。補助金を利用して、和光苑の給湯設備更新・LED 照明に変更、介護施設の非常用発電機を整備した。
- ③ 組織規程を変更し、層の整合性を整備した。「居宅介護支援事業所」を「ケアマネステーション」にするなど一般の方にわかりやすい名称に変更した。
- ④ 第三者評価として、健康経営優良法人ホワイト 500 に認定され、ISO9001 を情報部・企画部・生活支援部が新たに取得した。
- ⑤ 下記の新しいプロジェクトを始動した。
 - ・本院に AI 問診を開始
 - ・365 日 24 時間の職員向け「けいじゅ心の相談室」、遠隔産業医面接を開始
 - ・けいじゅ健康保険組合を設立
 - ・溶けない脳活アイス、遺伝子解析サービスの販売開始
 - ・介護事業所での Foot 活プロジェクト開始、『介護まるわかりブック』、リーフレットを制作

総務部 総務課

■ 部長

松田 久良

■ 2019 年度のトピックス、実績

新たな取り組みは、下記のとおりである。

生産性を上げる	① 給与・人事システムの入替により、電子申請を実施・組織規程の改訂
顧客満足度を上げる	② 健康経営対策室を設置、健康経営に関する業務を強化（3年連続健康経営優良法人ホワイト500として認定）、けいじゅ心の相談室を開設し、遠隔産業医システムを構築、全職員年次有給休暇5日以上取得、けいじゅ健康保険組合設立準備 ③ 定年制を廃止するための就業規則、給与規程、退職金規程の改訂検討 ④ ポータルサイトの刷新
学習と成長	⑤ キャリアデザインプロジェクト E-learning 開始

■ 事業報告

- ① 給与人事システムの本格稼働により、時間外・有給休暇データの集計作業、電子申請、年末調整作業の大幅な業務効率化を実現した。人事システムの稼働のためにも、部署、役職名等組織を見直し、組織規程を改訂した。
- ② 健康経営対策室を設置し、ヘルスリテラシーを上げるべく、健康課題の明確化、対策と共に法人外公開した。結果、全国100位以内で認定された。ストレスチェックの受検率は91.4%と昨年90.2%より意識向上が見られた。また、メンタルヘルスへの対策として、365日24時間対応可能な『けいじゅ心の相談室』を開設し、長時間労働の医師等が法人外の産業医と面談できる体制も構築した。また、今年度、全職員年次有給休暇を5日以上取得100%できた。さらに、職員の健康維持向上を目指して、「けいじゅ健康保険組合」の設立を申請し、2020年4月1日に設立した。
- ③ 60歳を越えても安心して働くことができる体制を構築するために、定年制の廃止にともなう規程変更を検討した。

第2章 法人方針・事業報告（董仙会本部）

財務部

■ 部長

安井 智美

■ 2019 年度のトピックス、実績

データ経営を確立し分析力を強化する為に、恵寿総合病院事務部と協働し分析チームを立ち上げた。分析ツールの操作習得から開始し、経営層へのプレゼンテーションや活動内容をTQM活動として纏めるなどのマネジメントを行った。

開催	内容
第1回 7月26日	キックオフ
第2回 7月31日	DPC分析ソフト研修①
第3回 8月21日	DPC分析ソフト研修②
第4回 8月27日	症例検討発表会①
第5回 9月17日	DPC分析ソフト研修③
第6回 9月24日	症例検討発表会②
第7回 10月21日	症例検討発表会③
第8回 2月25日	症例検討発表会④

■ 事業報告

- ① データ分析チームの立ち上げ
恵寿総合病院事務部と協働したデータ分析チームは、メインメンバーを医事課係長として活動を開始した。実際のデータを用いてDPC分析ソフトの操作習得を進めた事によって、既存業務の効率化に繋げる運用を検討したり、メンバー以外の医事課職員に対しても活動報告を通して周知を進めた。
- ② ISO9001:2015 更新審査+拡大審査 承認
昨年までの内部監査は本部と恵寿総合病院事務部が別々に行っていたが、今年度からは相互監査とし、監査員も合同でチーム分けを行い50回計画・実施した。お互いに助言し合う事は大変有意義であり、それにより他部署の業務内容の理解を深めると同時に自部署の業務内容の見直しを進める事が出来た。
- ③ 人材マネジメント強化の為、キャリアプラン作成
経理課に新規採用1名と資材課に部署異動1名の配属があったが、キャリアプランに沿って順調に育成を進める事が出来た。

財務部 経理課

■ 課長

河合 隆志

■ 2019 年度のトピックス、実績

医療費等口座振替依頼書を改訂した。

新たに介護サービス料の【ゆうちょ銀行】口座振替可能となった事業所 ※11 の事業所で利用可能となった

◆ 患寿みおや

◆ けいじゅー本杉

◆ 患寿ローレルクリニック

■ 事業報告

- ① 医療費等口座振替依頼書を改訂し、利用者の利便性を図った。
- ② 作業効率を図る中で、支払調書をオンライン作成。
- ③ ISO 内部監査主管部門として年間計画を本部長と共同策定し、本部と本院病院事務部の相互監査を実施。

財務部 資財課

■ 課長

池岡 一彦

■ 2019 年度のトピックス、実績

- ① 業者と他部署との3者月間定例会議スタート（対2業者）。
- ② 内視鏡装置リース契約見直し。
- ③ 患寿総合病院5病棟、患寿金沢病院のナースコール入替。
- ④ 医療用自動血圧計を患寿総合病院に導入。

■ 事業報告

- ① 業者との定例会議を開始し、他部署からのクレームや物品不足件数の削減を目指した。
- ② 内視鏡装置リース契約を見直し、契約金額を当初より約18%削減できた。
- ③ 医療用自動血圧計の採用により、感染管理に対応できた。

企画部 企画課

■ 部長

進藤 浩美

■ 常務理事

神野 厚美

■ 2019 年度のトピックス、実績

けいじゅヘルスケアシステムの全介護施設をだれもがわかりやすく理解できるように「介護まるわかりプロジェクト」を展開した。一般の方向け各施設のリーフレットを作成と、職員向け「患寿まるわかりブック 2020（介護編）」を発行し、説明会を開催し、関係部署への配布を行った。

介護まるわかりプロジェクト スケジュール

7月	キックオフ
8月	全体・各施設ヒアリング、写真撮影
9月	リーフレット、まるわかりブック作成
10月	校正、発注
11月	納品、説明会、配布

■ 事業報告

- ① 2018年の業績集を作成し、6月の理事会で資料として活用した。
- ② 人生100年時代活躍プロジェクトの一環として、「Foot活プロジェクト」を企画し、石川県立大学宮口和義教授と神野理事長の対談企画や「Foot活体操」冊子の制作、Foot活サンダルの販売を主導した。
- ③ けいじゅヘルスケアシステムのコーポレートサイトの立ち上げ準備をスタートさせた。2020年春に公開予定。
- ④ 開業医が患者を紹介する際に活用してもらう目的で、医師それぞれの得意なことや専門分野を「Only1」として掲載した患寿まるわかりブック（医療編）を作成した。開業医をはじめ、近隣のケアマネジャーや訪問看護ステーションに配布した。また、法人職員全員にも配布し、医師の情報を改めて理解してもらった。
- ⑤ マスコミ向けのプレスリリースを年間で24回行い、新聞掲載やニュース放映につなげ、地域にむけて法人の取り組みをPRした。また、HP、Facebook、ラジオなどでおで最新の情報をタイムリーに発信した。

情報部 情報管理課

■ 部長

進藤 浩美

■ 課長

小澤 竹夫

■ 2019 年度のトピックス、実績

今年度は董仙会全施設の PACS 切替と恵寿金沢病院の医事システムを新版に切り替えた。また、一部の部門システムのサーバー統合を行い、ハードウェアの TCO 削減を行う仕組みを整えた。また、メールのクラウド移行を行い、テレワークを行えるようにした。

導入・更新システム一覧

- ・Seavo (恵寿総合病院、恵寿金沢病院)
- ・新版医事システム (恵寿金沢病院)
- ・既読管理システム (恵寿総合病院)
- ・訪問看護ステーション (恵寿金沢病院)
- ・Office クラウド移行
- ・ポータルサイト再構築
- ・サーバー仮想化統合 (給食システム)

■ 事業報告

- ① 董仙会全体の PACS を切替、ソフトウェアサービスの Seavo に統一した。電子カルテと同一メーカーになったことにより、電子カルテとのシームレスな連携が行えるようになった。また、所見システムもバージョンアップし使い勝手が良くなった。
- ② 以前から懸念事項であった所見確認漏れを防止するために既読管理システムを導入し、医療安全の向上に繋がった。
- ③ 恵寿金沢病院の医事システムを Newton' 2 にバージョンアップした。来年度は電子カルテシステムも Newtons'2 にバージョンアップ予定。
- ④ 恵寿金沢病院の訪問看護ステーション立上げに伴い、訪問看護ステーション用のシステム導入を行った。
- ⑤ メールシステムをオンプレミスからクラウドに移行した。これにより、コミュニケーション向上とテレワーク推進に繋がった。
- ⑥ 恵寿総合病院と恵寿金沢病院のパソコン (デスクトップ、ノート) 100 台の更新を行い、業務の生産性が向上した。
- ⑦ ポータルサイトをリニューアルし、職員への情報共有やコミュニケーションの円滑化に繋がった。

生活支援部

■ 部長

梅田 信一

■ 2019 年度のトピックス、実績

今年度よりめぐみ販売、レンタルステーション恵寿を所管業務に追加した。月 1 回めぐみニュース (チラシ) を発行した他、脳活アイス、Foot 活サンダル、ジェノプラン、携帯空気清浄機の販売を開始した。

・脳活アイス販売実績 (2019.7~2020.3)

	件数	個数
めぐみ	88	1,919
ネット	11	211
ローソン	13	196
試供・研修等	88	2,013
合計	200	4,339

・その他商品の販売実績

商品	販売数
Foot 活サンダル	60 足
ジェノプラン	13 個
空気清浄機	12 個

■ 事業報告

- ① ISO の審査にて生活支援部が今年度認証された。修繕年間計画と履歴管理表を整備して進捗管理、予算執行状況を管理した。
- ② FM 業務について
 - a) 介護事業所不用品処分 (倉庫整理) にて 5 S 実施
 - b) 和光苑・鶴友苑に止水板を設置して水害に備えた
- ③ ベンリー事業について
12 月で業務開始後 1 年が経過した。
販促活動として、職員キャンペーンを季節毎に 4 回行った。新規顧客獲得については、新聞折込を月 2 回実施、フリーペーパーへの広告を 1 回実施した。
年間問合せ件数 487 件、作業件数 374 件
- ④ めぐみ販売、レンタルステーション恵寿について
めぐみの業務を周知することを目的にめぐみニュース (チラシ) 月 1 回発行を開始し、新規顧客獲得につなげる活動強化した。董仙会の新規事業である、脳活アイス、Foot 活サンダル、遺伝子解析キットなど商品の販売を開始した。

キャリアデザインプロジェクト

■委員長

松田 久良

■ 2019 年度のトピックス、実績

全員研修 E-learning を開始したが、各期、修了者が減少。

	6 級	5 級	4 級	3 級	2 級	1 級	合計
4 月-7 月	2	39	98	171	145	235	690
	40%	80%	80%	72%	72%	67%	72%
8 月-11 月	3	12	49	92	93	197	446
	60%	24%	40%	39%	46%	56%	46%
12 月-3 月	0	10	43	66	65	129	313
	0%	20%	35%	28%	32%	37%	32%

■ 事業報告

- ① 5 年研修は、恵寿金沢病院 5 周年を記念し金沢にて開催、116 名の参加だった。20 年研修は、初めて北陸電力志賀原子力発電所、鳩ヶ丘、来迎寺見学コースを入れた。
- ② E-learning の新たな 5 コンテンツ（60 歳の手続き、ビジネスマナーの基本、健康経営、BCP 停電編、20 代からの資産形成）を作成、録音できず未完成。

TQM 委員会

■委員長

安井 智美

■ 2019 年度のトピックス、実績

若手職員（2 級、3 級者）の育成を目的に、発表大会の準備に参加する職員を各部門から選抜した。

本院	事務部：2 名、看護部：2 名、技術部：2 名
金沢	看護部：1 名
介護	和光苑：2 名、鳩ヶ丘・いこい・ケアマネ：各 1 名

■ 事業報告

- ① 前期は 9/21 ラピア鹿島で、特別審査員に北陸中日新聞 室木泰彦七尾支局長をお迎えし実施した。3 セッションの内 2 セッションで恵寿金沢病院が優秀賞を獲得した。
- ② 後期は 3/14 七尾サンライフプラザで、特別審査員に北國新聞 岩田稔弘七尾支社長をお迎えし実施を予定したが、新型コロナウイルスの影響で中止した。

広報委員会

■委員長

進藤 浩美

■オブザーバー

神野 厚美

■ 2019 年度のトピックス、実績

法人の広報活動について検討・実行した。

内容	
製作物	広報誌、マンスリーレター、各種パンフレット、HP、サインージ、フラッグ
メディア	ラジオななお、プレスリリース、広告

■ 事業報告

- ① 周知事項やイベント情報について検討し、外部には広報誌、マンスリーレター、プレスリリースなどを通じて情報を発信した。また、職員に向けてはメールやポータルサイトを活用し、情報共有・周知を図った。
- ② ラジオななおを活用し、法人の最新情報を地域に向けてお知らせした。放送したものを映像コンテンツとして病院内の医療情報ラウンジで放送した。

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■ 2019 年度のトピックス、実績

クラブ活動登録を開始した。（12 月 1 日現在）

名称	部員数
恵寿総合病院野球部	12 名
恵寿フットサルクラブ	9 名
クオリア倶楽部	5 名

■ 事業報告

- 7 月：七尾港まつり総踊り
→ 董仙会全体で約 180 名参加
- 12 月：けいじゅヘルスケアシステム大忘年会
→ 董仙会 366 名、徳充会 107 名
パートナー企業他 51 名、合計 524 名
他、ボウリング・ソフトバレーボール・ヨガなど

病院・施設委員会

■委員長

吉田 茂和

■2019年度のトピックス、実績

委員会の活動内容は以下の通りである。

開催日	内容
毎月 第2金曜日 16:30～17:00 (月1回)	各施設より稼働状況の報告 円滑な連携のための情報共有 新たな取り組みの紹介 など

■事業報告

- ① 生産性向上のため、Wi-Fi 環境整備施設を増やし、申し送りシステム「Dance Care」の増強を図った。
- ② 「介護医療連携用紙」の運用について協議した。
- ③ 「Foot 活プロジェクト」について周知した。また、「Foot 活サンダル」や「Foot 活体操」の活用について情報交換・情報共有を行った。

外国人職員受入れプロジェクト会議

■委員長

松田 久良

■2019年度のトピックス、実績

インドネシア人の介護技能職の受入事業に着手。

	内容
2019.3	現地視察、面接(董仙会2名、徳充会3名内定)
2019.4 ～	・受入れ研修6回(風習、生活習慣、食事、宗教) ・教育プログラム作成 ・教育担当者の外部研修
2020.3	・祈りの部屋設置 ・入国手続き(於:和光苑)

■事業報告

- ① 2019年4月中国人看護師 IMS プロジェクトは、准看護師1名を採用でき、瀋陽プロジェクトは5名採用予定が、看護師2名、准看護師1名となった。
- ② 2020年4月 IMS プロジェクトでは准看護師1名採用、瀋陽プロジェクトでは採用予定の2名が日本語検定1級に合格できず、採用に至らなかった。

地球温暖化対策推進本部会議

■委員長

梅田 信一

■2019年度のトピックス、実績

エネルギー使用に係る原単位について、2018年度は前年比の97.8%となり、エネルギーの使用を削減できた。

2016年度	2017年度	2018年度
0.07426	0.07627	0.07627
前年比	100.7%	97.8%

■事業報告

- ① 2018年度の省エネ補助金にて、鳩ヶ丘の空調をファンコイル型空調から高効率空調機へ更新、および照明設備LED化に伴う効果にて2018年度のエネルギー使用に係る単位が下がったと考えられる。
- ② 2019年度は和光苑の西棟にて給湯設備をA重油から電気ボイラに更新および照明設備をLED化を行い、省エネルギー化を推進している。

けいじゅ FM 会議

■委員長

梅田 信一

■2019年度のトピックス、実績

各種補助金事業を実施した。

	内容
和光苑	省エネ補助金事業 (給湯設備・照明・キュービクル更新)
鶴友苑	補助金事業(非常用発電機整備)

■事業報告

- ① 各介護事業所の倉庫整理を行い不用品処分を実施し必要物品の収納を整理した。
- ② 災害時井水供給設備設置を用いた地域防災訓練を実施した。
- ③ 主な改修工事
・和光苑、鶴友苑 止水板設置 玄関改修
・和光苑 祈祷室整備
・金沢病院 正面エントランス改修 婦人科健診室改修

グリーン会議

■委員長

梅田 信一

■2019年度のトピックス、実績

オリックスファシリティーズ恵寿事務所は本社より以下の3部門を受賞した。

1. 業務負担軽減策 最優秀賞

ウィンドウロボット導入によるコスト削減&安全作業の確保

2. 2019年度優良事業所認定

3. 2020年度の安全対策の標語で最優秀賞を受賞

■事業報告

- ① 恵寿総合病院の落下針（清掃時発見）は2018年度20件より対策にて4件と件数が大幅に減少した。
- ② ファイバースコープを導入して、配管を衛生的に清掃を行えるようにした。

けいじゅヘルスケアシステム給食戦略会議

■委員長

進藤 浩美

■2019年度のトピックス、実績

セントラルキッチン（デリカサブライセンター）と各病院等のサテライトキッチンでの給食提供システムについての問い合わせ、見学が多かった。医療福祉設備学会からの依頼により学会誌にセントラルキッチンの業務とその効果をまとめた。

病院名	人数
函館五稜郭病院、福祉村病院、麻生飯塚病院	10

■事業報告

- ① 各サテライトの生産性向上のため、デリカにて皮むき機器を導入し、フルーツカット業務を移行した。
- ② 生野菜消毒をカット野菜工場での標準殺菌方法を導入し、オゾン水精製のメンテナンス費用を削減した。
- ③ デリカのBCMとして、休日待機者を置いた。各事業所の食器を順次更新し、コップの標準化を図った。

健康委員会

■委員長

松田 久良

■2019年度のトピックス、実績

健康経営優良法人「ホワイト500」を申請し、上位100位以内で認定され、3年連続の認定となった。

今年度の新たな取り組み

- ・健康経営対策室を設置
- ・健康課題等を法人外へ情報開示
- ・ヘルスリテラシーの強化
- ・365日24時間電話相談可能な『けいじゅ心の相談室』開設

■事業報告

- ① かがやき健康企業認定証（全国健康保険協会石川県支部）を3年連続認定された。
- ② 腰痛発症を予防のため『持ち上げない介護』を推進、メンタルヘルス対策として、『けいじゅ心の相談室』『オンライン産業医面接』を準備し、ワークライフバランスとしての年次有給休暇5日以上取得を全職員達成した。

個人情報管理委員会

■委員長

進藤 浩美

■2019年度のトピックス、実績

新たな個人情報マネジメントシステムを構築した。

会議名	メンバー
個人情報管理委員会	管理者、部門管理者で構成 管理者：部門長 部門管理者：院長、院長、施設長
個人情報委員会 (事業所ごと設置)	部署責任者、担当で構成 責任者：部長 部署担当者：科長、課長、所長

■事業報告

- ① 個人情報マネジメントシステムの見直しを開始した。
- ② 董仙会プライバシーポリシーを策定し、周知を開始した。
- ③ 33部署の監査を実施し、集計中である。
- ④ 電子カルテ不正アクセス監査を実施し、アクセス職員へのヒヤリングを行い、是正措置をとった。
- ⑤ 入院・入所時の情報開示留保説明の再確認を実施。

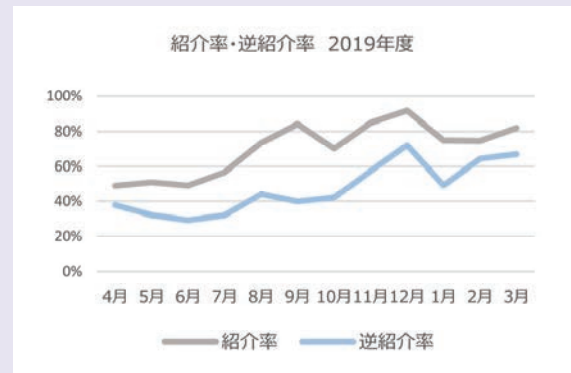
恵寿総合病院

■ 病院長

鎌田 徹

■ 2019年度のトピックス、実績

地域医療支援病院が承認された。承認要件の中で紹介率・逆紹介率が問題であったが、下図のごとく夏から両者とも増加し、最終的な紹介率・逆紹介率はそれぞれ 67.3%、44.6%であった。2月・3月は新型コロナウイルス感染が大問題となり、外来患者数は10数%減少した。



■ 事業報告

- ① 入院においては、急性期病棟の4指標である病床稼働率、平均在院日数、看護必要度Ⅰ、入院単価はそれぞれ87.9%、15.1日、31-34%、47,157円であった。それ以外に重要な指標である救急車受入台数、入院患者数、手術件数（全身麻酔）は1,529台、6,393人、1,704（933）件であり、ほぼ前年と同様であった。また地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、障害者病棟の稼働率はそれぞれ89.1%、93.8%、98.3%であった。
- ② 外来においては、AI問診を多くの診療科で導入した。またかかりつけ医からの要望が多い紹介患者の予約や初診患者の予約も増加した。
- ③ 全職員が有給休暇取得5日以上を取得した。
- ④ 地域医療支援として、能登地域の医療機関で当院の眼科、脳外科、糖尿病、循環器疾患などの専門医が今年度も診療を継続した。
- ⑤ 教育研修として、看護師特定行為研修、救急事例検討会、ケアマネ事業所勉強会、研修医勉強会などを継続した。

恵寿総合病院

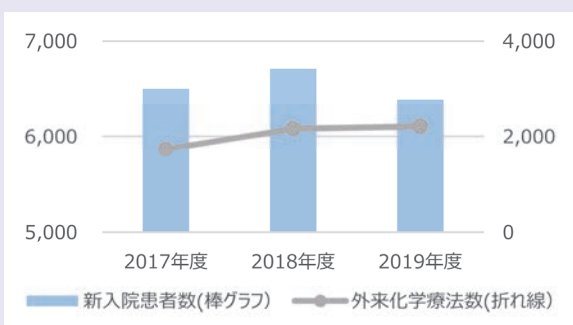
診療部

■ 診療部長

山崎 雅英

■ 2019 年度のトピックス、実績

- ① 外来化学療法の推進、延べ患者数の大幅増
- ② 紹介・逆紹介の推進、二人主治医制の充実
- ③ 免疫療法による irAE 対応における院内チーム医療開始
- ④ 医師の働き方改革の一環として、出退勤管理システムの導入、時期をずらした長期休暇取得の推進、全常勤医師 5 日以上の有給休暇消化



■ 事業報告

- ① 外来化学療法を診療部全体で推進し、外来化学療法患者数が大幅に増加
2017:1,727 件/2018:2,160 件/2019:2,211 件
- ② 病院長の指揮の下、地域連携を推進するため、連携医療機関との紹介・逆紹介を増やし、二人主治医の充実を図った。
紹介件数:
2017:4,484 件/2018:4,614 件/2019:4,735 件
逆紹介件数:
2017:3,231 件/2018:3,618 件/2019:3,671 件
- ③ 免疫療法による irAE(免疫関連副作用)発症に対し、複数の診療科による irAE 対応院内チームを立ち上げた。臨床腫瘍学会主催の irAE 対策講習会に他職種チームで参加し、病院全体に講習を行った。
- ④ 医師の働き方改革の一環として、出退勤管理システムを導入し、労務管理・健康管理に生かした。また、各医師が夏季休暇の取得時期を分散することで、全常勤医師が年 5 日以上の有給休暇を取得した。
- ⑤ 今後は他職種とのタスクシェア・タスクシフトを推進し、より濃厚かつ親切な患者診療を進めたい。

消化器外科

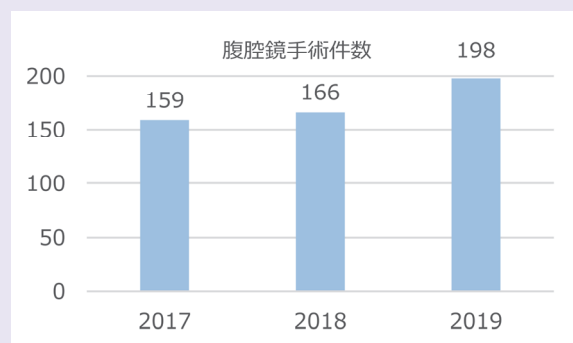
■ 所属医師

佐藤 就厚、高井 優輝、河野 達彦、林 雅人、
望月 一太郎、岩井 俊

■ 2019 年度のトピックス、実績

今年度の、全麻・腹腔鏡手術件数、総売り上げ・入院売り上げは、前年比を上回り、総売り上げを除き、目標に到達した。積極的な手術治療をすすめた成果と考えられた。

医局が当科の現状を理解され、常勤医の招聘に応じて、3 名から 4 名に増員になった。



■ 事業報告

- ① 消化器外科として全麻手術目標 230 件→232 件
(108.4%：前年度比、以下同じ) で達成
- ② 腹腔鏡手術目標 180 件→198 件(119.3%) で到達
- ③ 消化器外科医業総収入(外来・入院)目標の 95.3% で未到達(但し、設定根拠となった前年度の実績値は暫定値)
- ④ ③のうち、入院分目標の 113.8%で到達(但し、設定根拠となった前年度の実績値は暫定値)
- ⑤ CO2 送気装置を用いた CT colonography 目標 20 件→33 件(うち保険償還件数 19 件：機器購入後)で到達
- ⑥ その他：消化器外科外来売り上げ:92.6%、同単価:94.5%・入院単価:101.0%
- ⑦ 緊急手術件数増加 124 件
 - a) 外来減収の原因：外来化学療法患者の減少か
 - b) 緊急手術・拘束の負担に応える施策を強く要望

乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2019年度のトピックス、実績

2016年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上と充実を図っている。乳がん手術例は昨年度35例、本年度は37例と微増であった（下図）。新しいマンモグラフィおよび乳腺超音波装置により、画像の質向上が計られ、診断力アップと針生検の安全性がアップしている。また遺伝性乳がんの遺伝子検査にも対応可能な体制を構築した。



■事業報告

- ① 乳がんの診療の充実
昨年度に比較し、乳がん手術件数は微増（図）だが、外来化学療法・放射線治療件数ともに増加し、当院乳腺外科が周知されていると考えている。マンモグラフィにおけるトモシンセシス撮影例（通常の撮影では見逃しそうな病変もチェック可能）がドックおよび外来で、徐々に増加している。女性放射線技師がドック乳房超音波検査を実施している。
- ② 学会参加
2019年7月に日本乳癌学会にて発表を行うなど知識を深めた。
- ③ その他
再診患者さんはもちろん、初診・紹介患者も外来予約を開始し、利便性を図り、好評である。また紹介患者さんでなくても、かかりつけ医がいれば、積極的に診療情報を提供した。診療体制を充実し、最新の知見・治療にも対応し、能登の地域で信頼されるように精進していきたい。

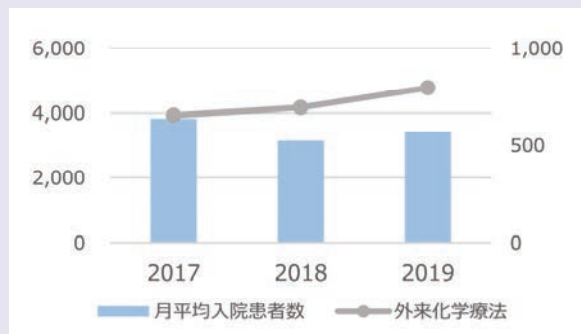
内科

■所属医師

宮森 弘年、宮本 正治、豊田 洋平、山崎 雅英、鎧高 健志、向井 清孝、山崎 恵太、宮竹 敦彦、矢部 友久、山村 健太、加瀬 一政、赤崎 恭太、岩淵 佑

■2019年度のトピックス、実績

- ① 外来化学療法の推進、増加
- ② リウマチ膠原病専門外来の充実
- ③ 内科系カンファレンス継続、他職種入院カンファレンスの継続・充実による入退院支援の強化



■事業報告

- ① 外来化学療法を推進、件数増（654件（2017年）→695件（2018年）→795件（2019年））
- ② 金沢医科大学血液・リウマチ膠原病内科の協力を得て、月2回リウマチ膠原病専門外来を拡充した。（正木主任教授、山田准教授）
- ③ 論文3編（筆頭）、学会発表19演題発表
- ④ 毎朝、内科・循環器内科・消化器内科・家庭医療科との合同カンファレンスを継続して実施し、個々の医師の専門知識のブラッシュアップを図るとともに、患者さんの主治医を分担し専門的診断・加療を実施した。
- ⑤ 毎週入院患者さんに関する多職種カンファレンスを行うことで、入院時より治療方針・退院支援に向けた意思統一を図ることができた。
- ⑥ 専門性の高い臓器別内科、他診療科との密な連携による高度な診療ができるよう推進した。
- ⑦ 今後は「総合内科外来」を設置し、プライマリケアを行うとともに、患者さんの適切な診療科への連携を図ってきたい。

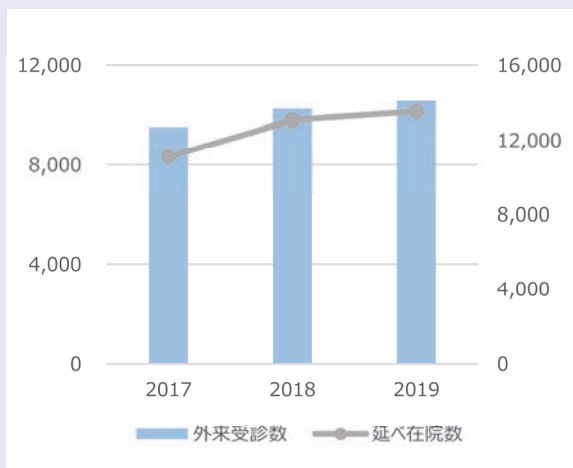
消化器内科

■所属医師

瀧崎 宇一郎、西谷 雅樹、中井 亮太郎

■2019年度のトピックス、実績

- ・外来患者数、入院患者数はいずれも昨年を上回った。
- ・当院が事務局として、第114回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会を地場産業振興センターで開催した。



■事業報告

- ① 内科（血液内科、腎臓内科、循環器内科）、家庭医療科および他診療科との緊密な連携のもとに的確な診断、専門的な治療を行っている。消化器内科外来・入院いずれも前年に比べて増加した。
- ② 今年度も講演会・勉強会を開催した。
講師：愛知県がんセンター消化器内科部長 原 和生、川崎医科大学特任教授 春間 賢、日本大学医学部消化器肝臓内科学教授 後藤田卓志、東京医科大学消化器内科部門教授 糸井隆夫、山梨県立病院機構理事長 小俣政男、横浜市立大学肝胆膵臓器病学教室教授 中島 淳、慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）教授 金井 隆典先生をお招きして講演会・意見交換会を行い、最新の情報や治療について学んだ。
- ③ 次年度は消化器内科は1名増員となるため、これまでより余裕をもった可能となると考える。

心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2019年度のトピックス、実績

脈管専門医の取得（1人）、産業医基礎講座研修全過程を終了（1人）。産業医との協力による一般事業所への講演会（安全衛生委員会）を開始した。開心術の件数は減少したものの、下肢静脈瘤・透析関連の手術は増加、手術件数は維持している。



■事業報告

- ① 2019年度は、産業医との協力による一般事業所への講演会を開始した。2020年度は更に複数の事業所・会社等へ拡大し、病院アピール・患者数獲得に向けた企画を計画する。
- ② またハートセンターとして循環器内科と合同で、中能登・奥能登地域の医療機関と連携を深めるため、市民公開セミナー及び連携医療機関での講演会を行った。2020年度も継続的に開催する予定である。
連携医療機関での講演会：
2019/7/19：ハートセミナー in 輪島
2019/10/10：奥能登抗凝固療法セミナー
2019/10/18：脳卒中・循環器病対策講演会
学会発表：
2019/11/10：第5回こしのくに Venous Forum

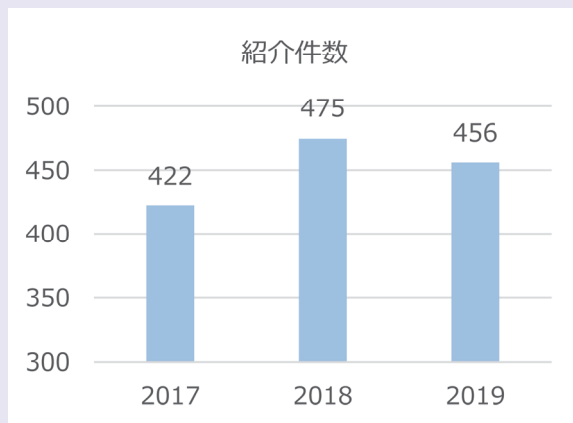
循環器内科

■所属医師

宝達 明彦、寺田 和始

■2019年度のトピックス、実績

医師数は2人となったが、PCI 件数を維持し、さらにカテーテルアブレーションも軌道にのり、なんとか維持することができた。



■事業報告

- ① 人員減となったが、個々人の努力に加えて業務見直しによる効率上昇により、診療体制を維持した。
- ② 10月に市民公開講座で講師を務め、七尾地区や奥能登での講演会を継続し、積極的にアピールを行っている。
- ③ 能登地区において唯一のハートセンターとしての役割を担っている。奥能登の医療機関と連携しての講演会や出張外来のみならず、能登地区唯一のリードスペースメーカー、浅大腿動脈ステントグラフト施設、心臓血管外科とのハイブリッド治療など先進的な治療を導入して地域医療に貢献している。

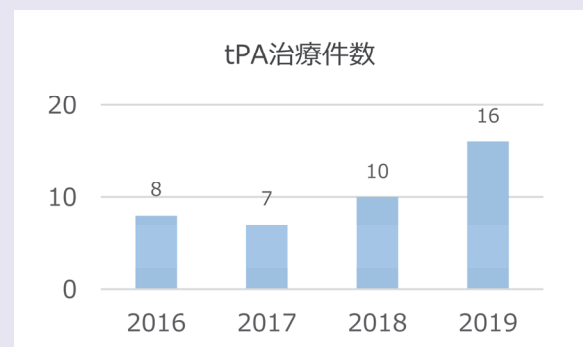
脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2019年度のトピックス、実績

tPA治療件数は、年々増加。発症時期不詳の、ウエイクアップストローク等に対しても、MRI画像での「デフュージョン・フレアー・ミスマッチ」を認め、適応があると考えられる症例には、投与可能となったため、更に件数が増加した。



■事業報告

- ① 2019年
新入院患者数：183人
延べ入院患者数：12,859人
(1日平均35人の入院患者)
手術件数：14件(慢性硬膜下血腫13例、頸動脈ステント拡張術1件)
- ② 入院患者数は30~40人で推移している。
- ③ 他病院からの、回復期リハビリ病棟への適応が厳しい症例の受け入れにも対応している。
- ④ 毎週木曜にハイケアユニットにて、ストロークユニットフィルムカンファレンスを行っている。医師、看護師、リハビリ療法士、研修医等の多職種で、症例の病態の理解を深め、情報を共有するとともに、画像を読影する力を深めるために役立っている。

脳神経内科

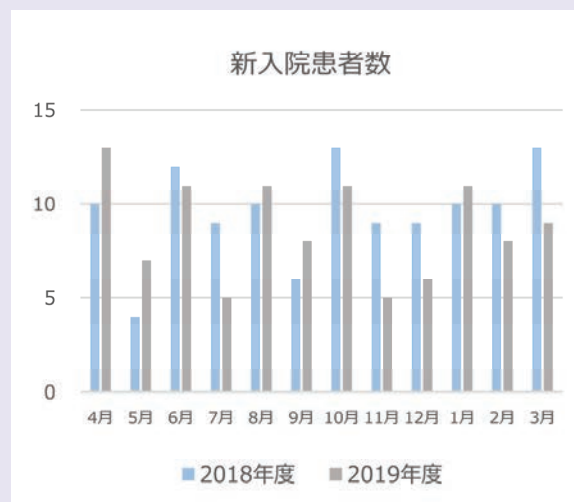
■所属医師

木元 一仁

■2019年度のトピックス、実績

科名が神経内科から脳神経内科に変更となった。

前年と比較し、特に下半期は新入院患者数は減少した。



■事業報告

- ① ボトックス治療は 2018 年度の 26 件から 35 件に増加した。
- ② 外来、救急医療を継続し、入院患者は常時 15 名程度を推移している。
- ③ 多職種でのストロークユニット回診、カンファレンスを定期的に行い、スタッフのレベルアップを図っている。
- ④ 一人診療科であり、現状が限界である。

整形外科

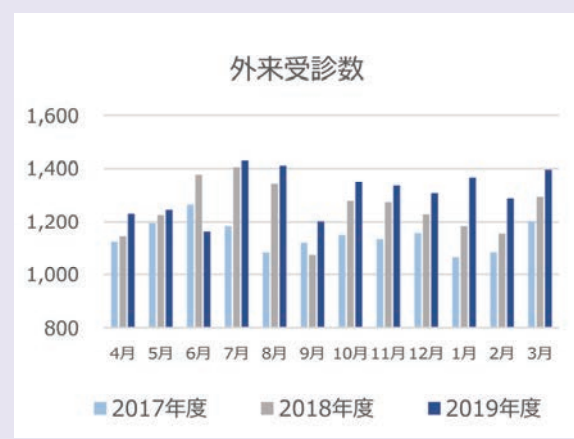
■所属医師

森永 敏生、山本 大樹、下川 寛右

■2019年度のトピックス、実績

外来患者数は増加、新入院患者数はほぼ昨年同様だった。

また手術件数も増加し、増収に貢献した。特に、手指の疾病・外傷に対する治療を重点的に行った。



■事業報告

- ① 手術件数が増加した。特に手指の外傷や大腿骨近位部骨折に対する手術が多かった。その結果、外来、入院とも売り上げが増加した。
- ② 前年度に引き続き、骨粗鬆症患者の受け入れを積極的に行った。多職種からなるリエゾンチームを結成し、大腿骨近位部骨折患者に対してサービス提供を開始し、二次骨折予防に向けた活動を行った。
- ③ 毎朝カンファレンスを実施、患者の情報を共有するとともに、良質で適切な治療を提供できるように努力した。

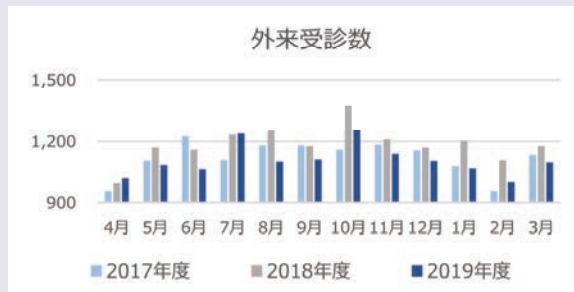
産婦人科

■所属医師

新井 隆成、安田 豊、高多 佑佳、宮田 康一、
東 恭子

■2019年度のトピックス、実績

産婦人科の医師スタッフ数は、必要人数は維持できている状態であり、女性医師も2名が維持された。家庭医療科の医師を含めれば、妊産婦を含め女性のコモンな疾病に関わることのできる医師スタッフが充実していると言える。今年度は、当院における婦人科腫瘍腹腔鏡下手術の導入が増加した。業績アップを目指した外来体制と広報が課題となった。



■事業報告

- ① 婦人科健診異常者の2次検診率上昇を目指して、女性医師による2次検診日を新たに設定して診療を開始した。このような新しい取り組みには、その効果の評価が定期的に必要と考えられ、女性診療の業績をあげるためのプロジェクトチームを作ることを提案したが、実現できなかった。ぜひ、今後は医師と関連部署でチームを結成して継続的な診療体制のブラッシュアップを図り、業績につなげたい。
- ② 分娩数の減少は能登地域全体の問題である。この5年間で中能登地区の分娩数は25%減少し、この率は当院の分娩数の減少割合とほぼ一致している。産科診療の状況については、母体死亡や母体の重篤な後遺症発症事例はなく、この5年間の新生児搬送は1例のみで、当院における周産期管理上の医療安全目標は達成されている。また、婦人科手術診療においても、医療事故事例は認められていない。これらの医療安全における実績を強みにした広報的戦略が不足しているのが、業績低下の要因の一つであると思われる。
- ③ 標準治療の医療機器の整備が本年度も叶わなかった。手術患者数増加を目指し、子宮鏡システムの整備を待ちたい。

家庭医療科

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、二川 真子

■2019年度のトピックス、実績

患者数：9,400人（前年比：99.3%）

一日当たり患者数：40人（前年比103%）



■事業報告

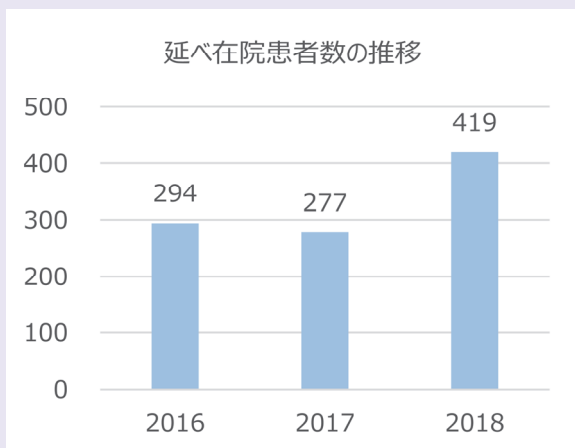
- ① 総患者数は、9,400人で、前年（9,467人）と同等であった。一日当たりの患者数は40人で若干増加した。訪問診療件数は、432件で、前年（188件）より倍増し、外来⇔入院⇔在宅と継続して円滑に提供できる地域包括ケアを推進できた。
- ② また、新たな取り組みとして、
 - a) カルテコ導入、b) QRコード決済を開始した。
 - a) カルテコ導入
1月より、カルテ情報閲覧サービス「カルテコ」で患者（透析患者含む）が自分のカルテ情報をスマートフォンやパソコンなどで閲覧できるサービスを開始した。
 - b) QRコード決済
1月より、QRコード決済サービスの提供を開始した。不意な怪我や病気で診察を受けた時等、持ち合わせよりも受診料が高くなった場合にも支払いができるようになり、来院者の方の利便性が向上した。

小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、池野 観寿

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 2019年度は一般の小児疾患の診療と金沢医科大学より小児内分泌、および小児神経、金沢大学より小児アレルギーそして小児循環器（中谷）の専門外来と新生児を中心にした入院治療を柱にして小児科の事業を行ってきた。
- ② 外来は専門外来が前年に比して患者数の増加があり全体的には堅調に推移したと思われるが、入院は新生児の分娩数の減少もあり前年に比して減少した。
また、血友病 A 患者の治療製剤変更に伴い 2020 年 1 月、2 月の外来の売り上げが増加した。

眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎

■2019年度のトピックス、実績

地域の医療機関との連携強化に努め、年間 400 件以上、毎月平均 30 件以上の紹介件数を継続している。

	2016	2017	2018	2019
紹介件数	461	437	450	425
紹介件数（月平均）	38	36	38	35
逆紹介	428	438	446	353
逆紹介件数（月平均）	36	37	37	29

■事業報告

- ① 他の医療機関の先生方の期待に沿えるよう、紹介患者さんに対し最新の知見に基づいた治療手段の選択肢を提供できるように努力したい。
- ② 白内障を中心に硝子体、眼瞼、緑内障の手術を提供している。全てご高齢の方に耐えうる低侵襲の最新の手技を心掛けている。
- ③ また外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、できるだけ患者さんの負担にならない投薬、通院の仕方を提供できたらよいと考えている。
- ④ 働き方改革に留意した仕事の進め方に注力したい。

耳鼻咽喉科

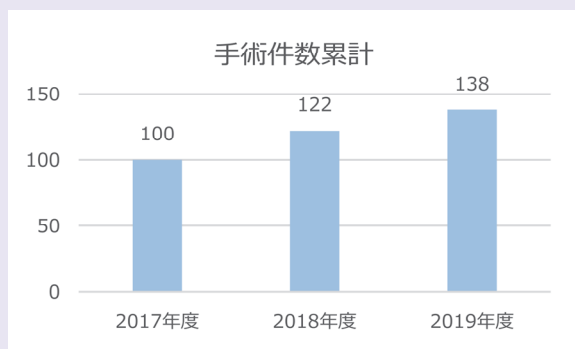
■所属医師

山田 和宏

■2019年度のトピックス、実績

手術件数が138件に増加

(2017年度100件、2018年度122件)



■事業報告

- ① 2019年度
外来受診数：6,395名
初診患者数：630名
新入院患者数：94名
- ② 紹介件数が増加した。
183名(2018年度)→204名(2019年度)
- ③ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

泌尿器科

■所属医師

川村 研二

■2019年度のトピックス、実績

第20回日本クリニカルパス学会 シンポジウム経営思想に基づくクリニカルパスを用いた医療情報の活用 S2-2 ERAS と急性期期間の短縮-DPCデータによる急性期期間の分析-
12年8ヶ月間に恵寿総合病院泌尿器科で施行された1,836例の手術症例を評価：手術の種類は経尿道的手術が約70%，小切開開腹術(前立腺・腎等)が約14%を占めた。手術関連死亡率は1,836例中0例(0%)であった。

2019年度泌尿器科手術件数

手術の種類	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	34
経尿道的前立腺剥離術	26
その他(手術室)	34
ESWL(結石衝撃波治療)	36
合計	130

■事業報告

- ① 体外衝撃波結石破砕術 (Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy : ESWL)
ドルニエ Delta III Far Sightを導入し2020年3月までに55回の治療を施行。95%の完全碎石率で手術併発症を認めなかった。
- ② 経尿道的前立腺剥離術
お腹を切らない前立腺肥大症の手術方法であり、2008年から470例の手術を施行し、良好な手術成績を継続している。昨年より新たに保険収載され、全国の泌尿器科の指導的な役割を果たしている。
- ③ 排尿自立指導料
継続して、入院患者の排尿管理を行っている。尿道カテーテル抜去後の排尿管理で、感染症の減少、在院日数の短縮、カテーテル留置期間の短縮が可能となった。
- ④ 論文執筆・学会発表
感染症・泌尿器科癌・術後回復強化プロトコル(ERAS)・クリニカルパスについて報告している。論文執筆は7編と多数の報告。学会発表6回。

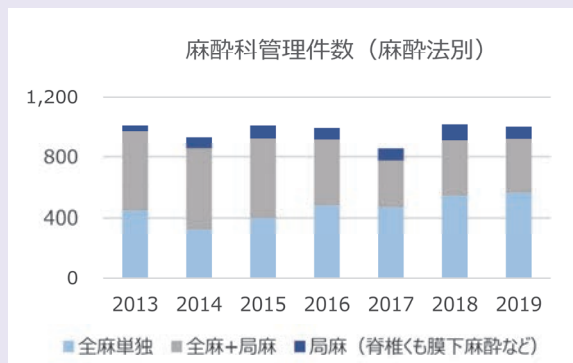
麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦

■2019年度のトピックス、実績

- ① 麻酔科管理手術件数 1,003 件（前年度 1,018 件）



- ② 総麻酔管理時間 3,318 時間（前年度 3,563 時間）
③ 緊急手術割合 37%（前年度 33%）
④ 無痛分娩数 27 件（前年度 28 件）
⑤ 緩和ケアチーム対応患者数 35 件（前年度 34 件）

■事業報告

- ① 麻酔科管理件数
昨年度とほぼ変化なし。周術期管理システムによる入退室管理やスケジューリングの効率化により、維持されている。
- ② 総麻酔時間
昨年度とほぼ変化なし。内視鏡手術など高度で長時間な手術に対応できている。
- ③ 緊急手術割合
37%と増加。麻酔科医を有効に配置し、緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。
- ④ 無痛分娩数
全経膈分娩の 15%とほぼ変化なし。母体管理体制を整え、安全性と質を高め潜在的ニーズを拾い上げ、当院の分娩数の増加につなげたい。
- ⑤ 緩和ケアチーム対応患者数の維持
多職種と協議しながら、患者さんが少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

皮膚科

■所属医師

坂田 祐一

■2019年度のトピックス、実績

曜日を問わず積極的に対診依頼を受けた。蕁麻疹、重症薬疹、帯状疱疹、マダニ刺症など当科の早期介入が役立ったケースもあった。蕁麻疹治療に日本皮膚科学会蕁麻疹治療ガイドラインを参考に質問票である UCT score を導入し患者の治療満足度を上げようとした。



■事業報告

- ① 蕁麻疹治療に質問票である UCT score を導入したことに関してその方法や成果などについて他院勤務の皮膚科医等に報告を行った。
- ② 真菌感染症にステロイドを誤って使用する機会を減らすため、積極的に KOH 直接検鏡を行った。
- ③ 臨床症状より脂漏性角化症を強く疑う症例であっても悪性黒色腫や基底細胞癌、Bowen 病などを見逃さないようにダーモスコピー検査を積極的に行った。
- ④ 高齢者のスキンケアを予防するために患者本人、家族にスキンケアの重要性を説明し実際に車椅子移乗時や入浴時など生活上の注意点についても説明を積極的に行った。

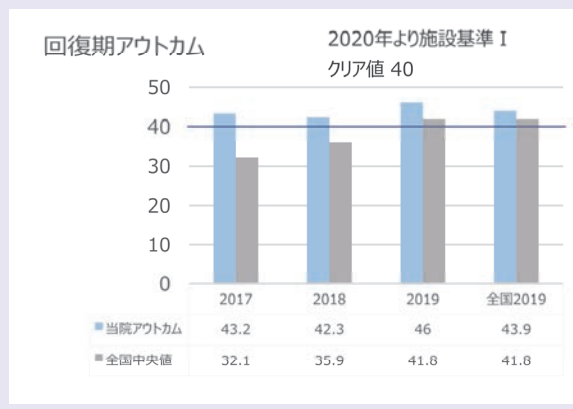
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

■2019年度のトピックス、実績

グラフは過去3年間の当院回復期リハ病棟の質の基準である実績指数の変化と全国平均を比べたものである。(実績指数は、入院リハによってどれだけADL向上が見られたかを示す指標) 2019年は今まで以上に高い実績指数を示しており、当院回復期リハ病棟の質が高いことが改めて証明されている。



■事業報告

- ① リハ処方数は年間2,500を超えるようになり、さらに毎年増加している。その要因は入院患者のリハ施行率の年々の増加であり、2019年度は入院患者の約64%にリハが施行された。回復期リハ病棟への転院紹介患者数も増加が続いており、2019年度は67例であった。
- ② 麻痺患者へのボツリヌス治療数は北陸でも有数だが、今年度は施行に際してセラピスト・薬剤師・検査(エコー)技師・看護師とチームで取り組むようになり時間短縮、正確性などが向上した。また地域との連携のためのボツリヌス連携手帳を作成し、今後脳卒中を中心に活用予定である。
- ③ 認知症および脳疾患後の自動車運転再開のための評価は、今年も昨年同等の約60例行っており、自動車学校との連携もさらに強くなっている。毎週認知症ケアチームとして認定看護師と作業療法士でBPSD回診を継続しており、ケア加算は約10%増加し、病棟の拘束数は約17%減少した。
- ④ 新しい取組みとして透析中リハ、産科リハ、めまいリハに取り組んだが、今後も継続して効果などを啓蒙していく予定である。
- ⑤ リハ部での論文数は7、学会発表数は29、資格取得数は15であった。

第2章 法人方針・事業報告(恵寿総合病院)

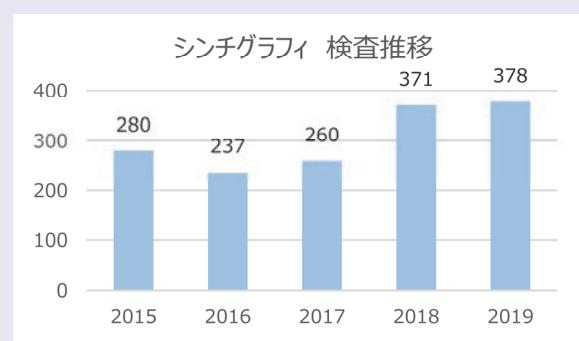
放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2019年度のトピックス、実績

2017年度に新しくガンマカメラを更新している。前年度同様に件数をほぼ維持(378件)している。
地域連携病院からの依頼も4件→11件と増加。(2018年度比)能登地区でのRI検査の一翼を担っている。



■事業報告

- ① 核医学検査
ET検査件数 748件。前年度比9.8%減。
- ② 腹部血管塞栓術
腹部血管塞栓術は、本年度より休日・時間外の緊急症例に対応する体制を整えており、緊急を含め39例行っている。前年度比2.5%減。
- ③ CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ
2018年度 17件
2019年度 9件

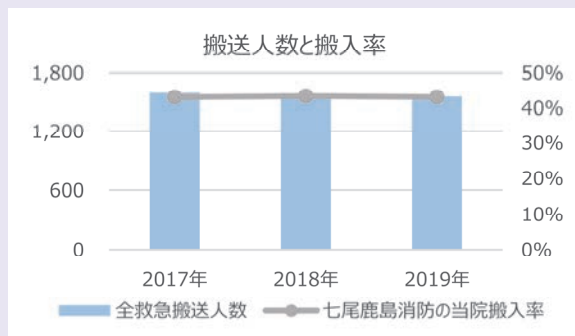
救急救命科

■所属医師

米田 高宏

■2019年度のトピックス、実績

救急外来への患者、近医、職員からの不満はなかった。救急センター問診票を活用し逆紹介に意識して取り組み始めた。研修医への早朝勉強会に積極的に取り組んだ。後日専門外来でフォローアップしてもらうために救急外来受診患者に渡している再診案内用紙の回収を開始し、再診率は54%だった。

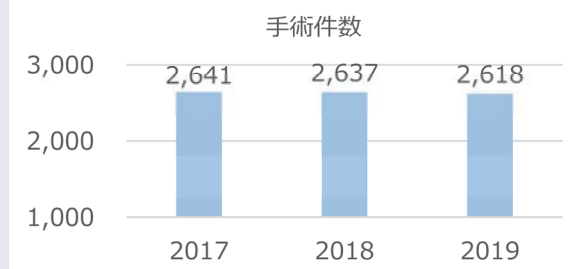


■事業報告

- ① 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を更新できた。
- ② 救急搬送患者数を1,500台に維持できた。
- ③ 救急外来受診数は1万人台を維持できた。
- ④ 年間入院数は1,000人台を維持できた。
- ⑤ 当院の弱点であったIVRも、金沢大学の放射線科非常勤医師と連携をとって対応できている。
- ⑥ CT・MRIの読影レポート結果は必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。
- ⑦ 各科への振り分けのタイミングや各科の特徴を把握して適切なER診療を継続している。
- ⑧ 研修医のER研修は継続して力を入れている。最新のレポート提出状況を一覧で把握し、効率良いレポート作成ができた。

形成外科美容外科

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 医師の異動により外来体制の変更があった。
- ② 金沢医科大学形成外科医師と連携した診療体制をとっている。
- ③ 外来手術を主軸とし、年間の手術件数は前年度水準を維持している。

緩和ケア科

■所属医師

榎田 康彦

■2019年度のトピックス、実績

毎週金曜日に症例検討会、2ヶ月に1回緩和ケア委員会を開催した。下記は2019年度の主な活動内容である。

日付	活動内容
7/13	市民公開講座（公立羽咋病院） 緩和ケアの啓蒙をするための役者として参加
10/27	医療従事者のための緩和ケア研修会 （金沢大学附属病院）講師として参加

■事業報告

- ① 緩和ケア科（緩和ケアチーム）への紹介をスムーズにするため、紹介状がなくてもメール連絡のみで紹介できる体制を整えた。主治医だけでなく、他の医療従事者からのメールでも紹介可能とした。
- ② 疼痛の評価シートに入力可能とした。

健康管理部

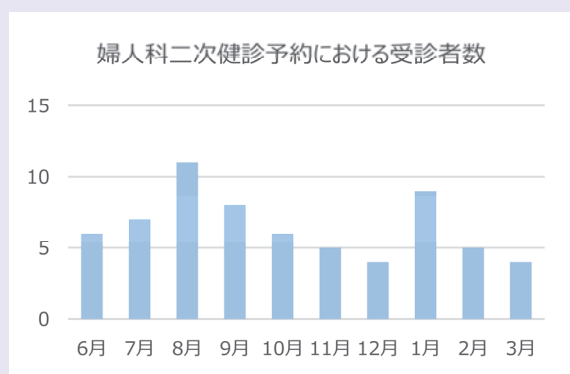
■所属医師

上野 恭一、泉谷 麻子

■2019年度のトピックス、実績

6月より婦人科二次健診について、毎週金曜日午後予約制を導入し、受診できるようになった。

当センターで健康診断を受けた方が、スムーズに二次健診が受けられるサービスが提供できるようになり、多くの方にご利用頂いた。



■事業報告

① 特定保健指導実施

全国健康保険協会石川支部の他、2つの健康保険組合と協力し、特定保健指導を拡張し、130名を超える対象者へ実施した。今後、積極的な促し、対象者にあつた指導内容改善等行いながら、引き続き利用者の生活習慣改善に取り組みたい。

② 日本脳ドック学会施設認定取得

6月に日本脳ドック学会の施設認定を新たに取得した。年間1,100名以上が脳ドックを受診されており、今後も引き続き、展開していきたい。

③ 遺伝子解析サービス開始

12月から「ジェノプランジャパン」社の検査キットを使用した遺伝子解析サービスを開始した。健康段階で病気の予防方法を考え、健康寿命の延伸につなげるツールになると考える。既に100名以上へ提供している。

④ 受診者数推移

昨年度同様、来院健診、出張健診を含め、10,000名以上の方が受診された。受診者数を維持しながら、人間ドック認定施設を更新するなど、更に質も高めていきたい。

看護部

■看護部長

本橋 敏美

■2019年度のトピックス、実績

① 特定行為看護師5名誕生、計16名となる。

特定行為実施件数：151件/年

② 抗癌剤投与実践研修継続6年目。修了者総数55名

③ 法人内施設一病院間の早期退院支援バス作成。

施設間との看視連携強化



■事業報告

① 退院支援の強化

退院支援バスの活用により情報共有が早くなった。入院前～退院後までの業務フロー作成。効果あり。退院支援看護師育成プログラム実施（12名修了）

② 業務改善による生産性向上

24時間持続点滴追加等や排液測定の時間帯を夜間から日勤帯に変更し、患者の環境調整、看護師の夜勤帯の業務量を減らした。

各部署で業務改善に取り組み、計20件改善

③ JNA クリニカルラダー導入

日本看護協会（JNA）クリニカルラダーを導入し、等級別に看護実践能力を評価した。意志決定支援能力の向上をめざし、研修会を実施し、評価結果が上がった。

④ スペシャリスト・ジェネラリストの活用

特定行為に実施件数が増加。特定行為看護師の支援が定着しつつある。

看護管理者研修においてデータ活用発表会を開催

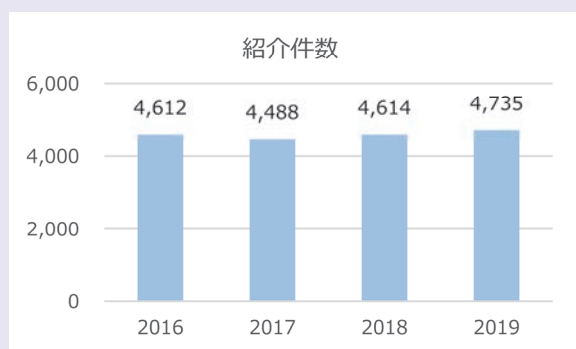
事務局

■ 事務部長

森下 毅

■ 2019 年度のトピックス、実績

地域医療支援病院認定取得を目指し、紹介件数、逆紹介件数を向上を重要目標とした。紹介件数は、4,735 件で昨年度比 2.6%増加。目標達成率 100.7%であった。逆紹介件数も昨年度比 1.5%の増加となった。



■ 事業報告

- ① 昨年度から引き続き紹介患者数の増加を目標に挙げた。目標値を 100 件 (2.2%) アップした結果、100.7%の達成率となった。紹介率も地域医療支援病院の基準をクリアすることとなった。あわせて逆紹介件数も前年度を上回り、率においても基準をクリアした。
- ② タスクシフト・タスクシェアを進めるべく、部内の課をまたいだ協力体制の拡充を行った。
- ③ 生産性向上のため、作業効率を上げる取り組みとして、AI 問診導入を行った。患者は受付待ち時間の間に症状についてタブレット入力をするので、これまで受付スタッフや看護師が行ってきた問診票のカルテ転記作業が大幅に削減された。
年度末には、PC の定型処理を自動化する RPA (Robotics Prosecc Automation) の導入を開始した。
- ④ 医師や医療従事者の負担軽減、働き方改革が広がる一方で、事務代行を行う当部門の業務量は増える可能性がある。ICT 技術を積極的に活用した作業効率の改善は待たなしであり、今後の課題は、そのための業務仕分け、作業分解を進めることである。

けいじゅサービスセンター 医療福祉相談課

■ 部門代表者

中川 一美

■ 2019 年度のトピックス、実績

6 月より新たに病院、施設間での退院時共同指導料算定を開始し、127 件算定した。



■ 事業報告

- ① 入退院支援パス作成と運用を開始し、支援を統一した。入退院支援加算 1,062 件算定 (昨年比 101%)
- ② 担当者会議院内ルールを作成、効率化 (時間 30 分以内) と満足度向上を図った。
- ③ 認定医療社会福祉士 1 名取得した。

けいじゅサービスセンター 地域連携課

■ 部門代表者

宮田 琴江

■ 2019 年度のトピックス、実績

新たに紹介患者を対象に満足度調査を実施した。

4 月	調査内容・実施方法の検討
5~7 月	紹介患者満足度調査実施
8 月	調査結果分析 改善案の決定
9 月~	改善案実行
2 月	効果測定実施
3 月~	改善案実施継続

■ 事業報告

- ① 600 名の紹介患者を対象に、紹介患者満足度調査を実施。結果を基に 3 点の改善案を実行、効果測定をした。結果、満足度は 78%から 89%へ上昇した。
- ② 紹介件数目標 4,700 件に対し、4,735 件の実績、100.7%を達成。(対前年度 102.6%達成)

けいじゅサービスセンター サービス課

■部門代表者
寺尾 美樹

■2019年度のトピックス、実績

業務の平準化、受付待ち時間短縮にとり組んだ。

受付待ち時間調査実施（来院から受付開始までの時間）

調査月	紹介	紹介以外
5月	17分	23分
9月	12分	35分
3月	14分	15分

■事業報告

- ① 受付、会計開始準備、精算機の片づけを当番制にし、誰もができるようになり業務の平準化につながった。
- ② 紹介受付優先窓口を拡大し紹介の待ち時間が短縮された。
- ③ 外国人対応講習会を実施し外来の職員がアプリを使用し対応できるようになった。

医療情報事務センター 管理課

■部門代表者
松木 尊紀法

■2019年度のトピックス、実績

医師の働き方改革（出勤退勤の打刻、年休消化 5 日以上）に管理課として取り組んだ。

出勤退勤の打刻	管理課長が承認、打刻漏れがあれば確認修正
年休消化 5 日以上	月初に消化日数を幹部、各医師に周知 未消化医師には催促、取得予定日を確認
その他	出張申請の代行入力、医師の異動の対応

■事業報告

- ① 各部署、会議、委員会の資料印刷（作成もあり）
- ② 掲示物の印刷、ラミネート、掲示期間の管理
- ③ プリンターの交換 33 台（外部委託費の削減）
- ④ PHS の交換修理 23 台
（水没多数部署へは指導、注意）
- ⑤ 土日祝日の管理日直に加わる（月 1、2 回）

医療情報事務センター 医事課

■部門代表者
松本 伸恵

■2019年度のトピックス、実績

難病外来指導料の算定件数を伸ばした。



■事業報告

- ① 主に難病外来指導管理料に力を入れ、医療秘書課、診療部との連携を強化した。2018 年度より 100 件増であった。
- ② 査定点数減少に向けて外来・入院共に勉強会を実施。2018 年度より、378,133 点の減少であった。

医療情報事務センター 医療秘書課

■部門代表者
三浦 有紀

■2019年度のトピックス、実績

各種診断書等の代行作成件数を伸ばした。



■事業報告

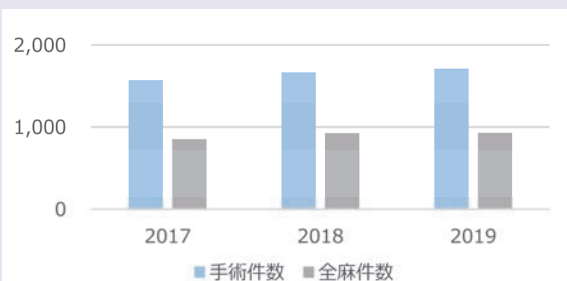
- ① 退院サマリ・診療情報提供書を含む文書代行件数 8,636 件
- ② 診療情報管理士によるがん登録件数 629 件
- ③ カルテデータを活用し、診療補助の事前準備の効率化を図った。

手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、金森 敦志

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 手術件数の増加
手術件数は2.6%増加した。中でも整形外科が330件から406件と23%の増加率であった。
- ② 全身麻酔件数
全麻件数932件、前年比+5件と昨年度からほぼ横ばいであるが施設基準800件をクリアしている。

血液浄化センター

■部門代表者

向井 清孝、菅野 則之

■2019年度のトピックス、実績

新たに腎代替療法として腹膜透析を開始した。

開始月	内容
7月	腹膜透析外来オープン
8月	通院パンフレット作成 患寿ローレルクリニック ホームページ リニューアル
11月	日本腹膜透析学会（広島市）にて研究発表

■事業報告

- ① 新たに腹膜透析外来をオープンし、ライフスタイルに合わせた腎代替療法を選択できるようになった。
- ② 周知としてラジオ出演やパンフレットを作成、また、患寿ローレルクリニックのホームページをリニューアルした。
- ③ 外来の質を高めるため、院外研修や学会に参加し、研究発表をするとともに他施設との情報交換を積極的に行った。

PET・CT リニアックセンター

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 放射線治療は、遠隔システムにより速やかに治療計画シミュレーションできる体制としている。放射線治療医は月2回の来院を継続している。治療件数は微増している。
- ② 来年度はPET-CTの更新を予定している。

内視鏡センター 内視鏡課

■部門代表者

瀧崎 宇一郎、松田 栄美子

■2019年度のトピックス、実績

2019年7月より北陸初の胆管鏡を導入。能登で最先端の治療を提供できるようになった。

項目	件数
胆管鏡による観察	6件
生検	7件
EHL（電気水圧式結石破碎術）	2件

■事業報告

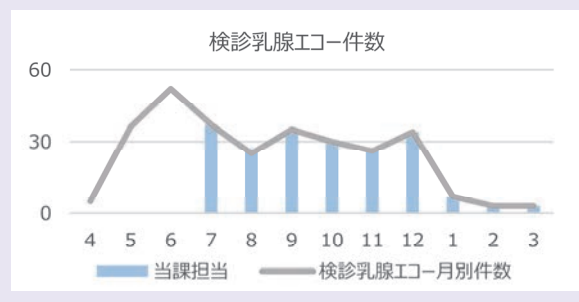
- ① 内視鏡総件数8,000件の目標に対し約9,500件と目標達成。
- ② 7月より北陸初の胆管鏡を導入し、微細な粘膜模様や血管走行に対する狙撃生検や通常治療困難な巨大結石や嵌頓結石が治療可能となった。
- ③ 週1回の治療日を継続し、残業日は減少したが、治療日の残業時間が長くなり今後の課題とする。

放射線センター 放射線課

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 検診乳腺エコーをタスクシフトして放射線課で担うため、研修・トレーニングを行い、7月からは全例の202名を施行した。
- ② 未確認所見の内容を調査し、受診や精密検査が望ましい症例について、医師に報告した。(30例)
- ③ 第12回中部放射線医療技術学術大会で発表

リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者

田中 秀明

■2019年度のトピックス、実績

腎リハ・産科リハ件数が増加した。

	2018年度	2019年度
腎リハ	7件	9件
産科リハ	5件	10件

■事業報告

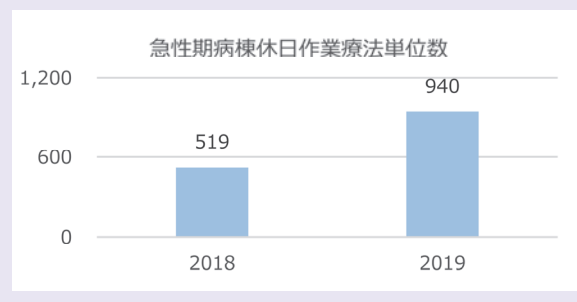
- ① めまいのリハビリテーションの運用システムを構築した。来年度より本格的に運用していく。
- ② ロボット装具を導入し、患者への治療に使用を開始している。来年度も実施件数を増加させていく。
- ③ 喀痰吸引の手技向上に向けたプロトコルを見直した。研修内容充実させ、セラピストの吸痰実施者が増加した。

リハビリテーションセンター 作業療法課

■部門代表者

川上 直子

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 3名増員、急性期病棟休日体制の拡充
- ② キャリアアップ、スキルアップ
資格取得4名：認定 OT、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター2級、認知症ケア専門士
- ③ 自動車学校と連携し実車評価日程を拡充

リハビリテーションセンター 言語療法課

■部門代表者

諏訪 美幸

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 摂食機能療法総件数：看護部と連携し、今年度は9,472件であった。
- ② 吸痰の技術習得(新規)：言語聴覚士7名全員が、技術習得が可能となった(達成率：116%)。
- ③ 今後の課題：経験年数が浅いSTが大半を占めるため、質の向上や顧客満足度に努め、人材育成を重要視する。

リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、井舟 正秀

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

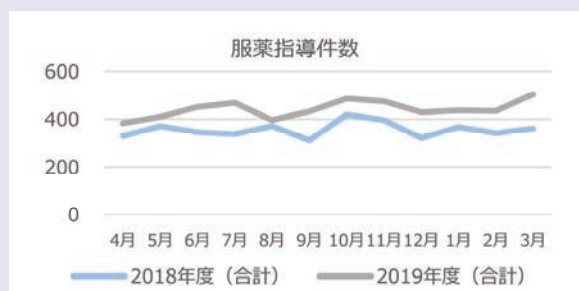
- ① リハスタッフにおける教育研修に関する職員満足度を調査した結果 62%だった。
- ② 記録業務省力化ため報告書のリスト入力や関連文書とのデータ連携処理機能を付加した。
- ③ 主に新人の教育研修プログラム数を増やし、研修計画の充実を図った。

薬剤管理センター 薬剤課

■部門代表者

川村 研一、藤田 昌雄

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① MDV 社のご協力を受け、指導件数・指導患者数が大幅に増加した。
- ② (新規) 薬剤総合評価加算 11 件
- ③ ジェネリック比率 2018 年度 90%→94%
- ④ 日病薬病院薬学認定薬剤師 1 名、論文執筆 2 編

栄養管理センター 臨床栄養課

■部門代表者

木元 一仁、前田 美穂

■2019年度のトピックス、実績

栄養指導と栄養サポート加算の件数の増加を図った。

	2018 年度	2019 年度
入院栄養指導 (件)	4,377	3,520
外来栄養指導 (件)	1,317	1,289
栄養サポート (件)	651	578
計	6,345	5,387

■事業報告

- ① 栄養指導、栄養サポート介入件数は昨年と比較し、15%減少した。
- ② 昨年に引き続き、回復期リハビリテーション病棟での栄養管理、また、がん患者への栄養指導を積極的に実施した。
- ③ 各病棟の担当管理栄養士が専門性を高めた。

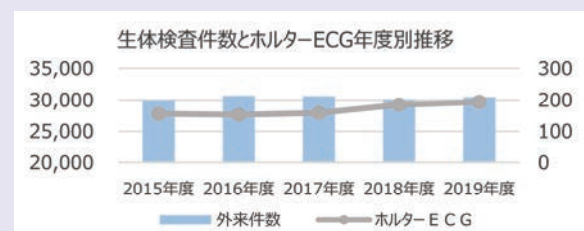
検査管理センター 臨床検査課

■部門代表者

西澤 永晃、谷内 正人

■2019年度のトピックス、実績

ホルター心電図の件数増加を目指した。



■事業報告

- ① 検体検査総数 : 272,450 件 前年比 -2.6%
- ② 生体検査総件数 : 35,254 件 前年比 -3.1%
- ③ RSV/hMPV (RS ウイルス/ヒトメタニューモウイルス) の同時測定迅速キットを導入した。
- ④ 厚生労働省指定講習会 (検体採取) を技師全員が修了した。
- ⑤ 全ての領域で、作業手順書の作成が完了した。

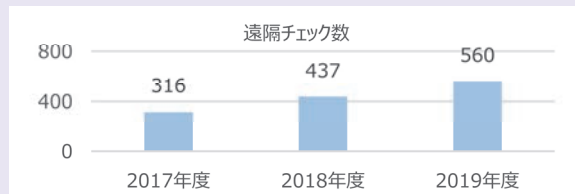
臨床工学センター 臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、栃原 康則

■2019年度のトピックス、実績

植込型心臓デバイス（ペースメーカー等）の遠隔モニタリング導入支援を強化し、遠隔チェック数増大に取り組んだ。



■事業報告

- ① 植込型心臓デバイスの遠隔チェック数は年々増加し、今年度の実績は560件であった。(昨年度+28%)
- ② 関与手術856件(昨年度+30.1%)、シャント工数56件(昨年度+133%)と増加し、教育・指導に力を入れて、部署内タスクシェアを行なった。
- ③ 生涯学習に取り組む姿勢が根付き、学会発表や学会認定資格取得などのキャリアアップに挑んだ。

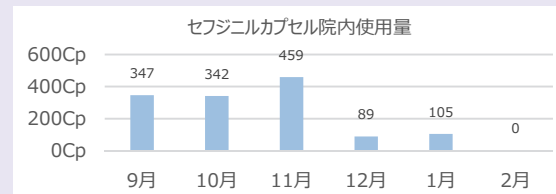
医療安全管理センター 感染制御課

■部門代表者

山崎 雅英

■2019年度のトピックス、実績

セフジニル（経口第3世代セフェム:AMRアクションプラン対象薬の1つ）使用量削減を行った。(白内障パスから削除)



■事業報告

- ① 針刺し等事故後の報告体制や提出資料の大幅な削減を行い、本来業務と再発防止対策の早期対応に繋がった。
- ② 新型コロナウイルス感染症防止対策の基盤を作成した
- ③ 新たにICD資格および抗菌化学療法認定医取得の医師1名、2020年度の感染管理認定看護師教育機関への合格看護師1名と後継者が育成されている

医療安全管理センター 医療安全管理課

■部門代表者

淵崎 宇一郎

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 部会で選定した重要警鐘事例をリスクマネジメント部会で報告、各部署で全スタッフからの投票を依頼した。
- ② RMと共に毎月の院内ラウンドを実施定着させた。
- ③ KYT研修を各部署で実施した。

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成

■2019年度のトピックス、実績

2020年採用研修医のリクルート活動

来訪者	
6/23 レジナビフェア東京	30名
7/7 レジナビフェア大阪	54名
2/16 レジナビフェア金沢	22名

病院見学見学 医学生 27名、研修医 3名
実習受け入れ 23名

■事業報告

- ① 医師臨床研修マッチング5名(募集定員5名)
3年連続フルマッチ(国家試験の結果4名採用)
- ② いわゆる後期研修医3名採用(産婦人科プログラム)
- ③ 外部講師を招聘し、講演会、研修会の開催
5/13 高村昭輝先生、5/20-25 ベリー先生
7/29 渡邊淳先生、1/6 三原華子先生
2/15 能登総合診療セミナー

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹

■2019年度のトピックス、実績

新たに以下の3区分を追加し、計7区分の研修が可能となった。

区分
創傷管理関連
動脈血液ガス分析関連
血糖コントロールに係る薬剤投与関連

■事業報告

- ① 9/30 3期生（2018.10 から 2019.9 まで）修了。
新規6名（うち1名は外部）、追加受講は10名
- ② 10/1 4期生（2019.10 から 2020.9 まで）開講。
新規9名（うち2名は外部）
- ③ 3期終了時点で当院の特定看護師は16名となった。
ポータルサイト等で周知し、活躍の場を広めていきたい。

恵寿金沢病院

恵寿金沢病院

■ 病院長

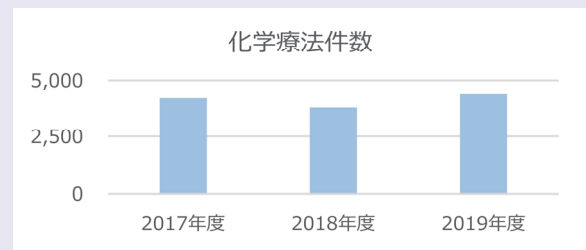
上田 幹夫

■ 2019 年度のトピックス、実績

7月に恵寿金沢病院 5周年記念研修を KKR ホテル金沢で開催し、116名の職員が参加した。GroupWorkでは「他施設から見た金沢病院」のテーマのもと意見交換を行い、大変有意義な研修となった。

10月に近隣地域の久保市乙剣宮で復活窪市が開催され、救急蘇生法の実演や脳活アイスの販売で当院も参加し、地元のお祭りを大いに盛り上げた。

年間を通じて、化学療法の患者が多く、入院・外来ともに前年・前々年度と比べて、件数が大きく増加した。



■ 事業報告

- ① 入院患者数：24,826人（前年比：101.6%）
- ② 外来患者数：31,880人（前年比：90.9%）
- ③ 人間ドック受検者数：2,236件
（前年比：144.4%）
- ④ 全身麻酔手術件数：87件（前年比：41.4%）
- ⑤ 化学療法実施件数：4,385件
（前年比：115.9%）
- ⑥ 無菌室利用件数：3,923件（前年比：90.0%）
- ⑦ 紹介件数：778件（前年比：94.8%）
- ⑧ 救急車受入件数：89件（前年比：89.0%）
- ⑨ 巡回インフルエンザ予防接種件数：1,644件
（前年比：105.7%）

内科

■部門代表者

村田 了一

■2019年度のトピックス、実績

新たに循環器を専門領域とする常勤医を迎え、血液内科を中心に呼吸器病や生活習慣病も含め、幅の広い受け入れ体制で診療を行った。それにより、循環器疾患が疑われる患者に対しても即座に対応でき、専門医の指示で適切な診断・治療を行うことができた。

■事業報告

- ① 入院患者数：19,965人
(前年比：1,015人増加、105.3%)
- ② 外来患者数：11,344人
(前年比：144人増加、101.3%)
- ③ 入院単価：前年比：103.1%
- ④ 外来単価：前年比：107.6%

血液疾患センター

■部門代表者

村田 了一

■2019年度のトピックス、実績

2019年度に新たに組織した血液疾患センターでは、化学療法を積極的に行い、『非ホジキンリンパ腫』『多発性骨髄腫』『骨髄異形成症候群』をはじめとする多くの血液疾患患者の診断・治療を行い、化学療法件数は入院・外来ともに増加した。

■事業報告

- ① 入院化学療法 3,640件
(前年比：324件増加、109.8%)
- ② 外来化学療法 745件
(前年比：279件増加、159.8%)

整形外科

■部門代表者

米澤 克隆

■2019年度のトピックス、実績

病診連携により力を入れており、金沢市内に限らず、他の地区からでも手術適応の方を紹介いただければ、対応できる体制を整えている。

紹介患者さんに対しては、早期に手術・処置を行い、速やかに紹介元に逆紹介させていただくことを当科の特徴として、今後も病診連携を進めていきたい。

■事業報告

- ① 入院患者数：4,619人（前年比：88.5%）
- ② 外来患者数：13,077人（前年比：84.3%）
- ③ 入院単価：前年比：103.1%
- ④ 外来単価：前年比：85.8%
- ⑤ 手術件数：156件（前年比：50.0%）

眼科

■部門代表者

繰納 勉

■2019年度のトピックス、実績

従来からの涙道手術を中心に、白内障手術、角膜前眼部手術を積極的に行い、手術件数も増加した。

	2018年度	2019年度
手術件数	170件	202件

■事業報告

- ① 入院患者数：262人（前年比：94.9%）
- ② 外来患者数：2,627人（前年比：96.2%）
- ③ 入院単価：前年比：104.7%
- ④ 外来単価：前年比：103.1%
- ⑤ 手術件数：202件（前年比：118.8%）

理学療法課

■部門代表者

畠山 智行

■2019年度のトピックス、実績

整形外科医が変わり、課としての算定の方向性を検討した。

年度	2018	2019
運動器（単位数）	1,031	974
がん（単位数）	341	488
スタッフ数	3.7人	4.1人

■事業報告

- ① 2019年より運動器の患者さんが減ることが予想されており、目標の業務量、算定額を目指しがんりハの対象患者増を目指した。
- ② 内科カンファレンスや新患カンファレンスにて、主治医、Ns、MSW とりハの必要性のある患者さんに対して検討した。

作業療法課

■部門代表者

米山 太朗

■2019年度のトピックス、実績

急性期～ターミナル期、訪問リハビリを実施。

認知症や離床困難症例へのOT処方が増加。

訪問リハビリの新規獲得、円滑な移行に取り組んだ。

	2018	2019
新患人数	311	340（前年比 109.3%）
訪問件数	812	826（前年比 101.7%）

■事業報告

- ① OT3名全員が訪問リハビリを実施、訪問業務の知識を身につけ、入院から訪問への移行が円滑になった。
- ② 臨床実習生受け入れを開始。
- ③ 6件の地域事業に講師として参加した。
- ④ 全国学会発表1件 機関紙への論文投稿1件

放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2019年度のトピックス、実績

前年と比較して検査件数が増加した。

	件数	前年比
CT	2,608	108%
マンモグラフィ	800	260%
超音波	2,568	145%

■事業報告

- ① TQM活動として安全な造影剤使用を目指し造影剤患者説明書・同意書の更新を行った。
- ② 7月より画像参照システムをseavoへ更新した。
- ③ ドック受診者増加に伴いすべての検査において大幅に件数が増加した。

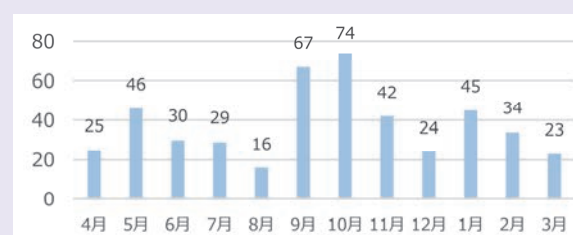
臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

■2019年度のトピックス、実績

内科外来での採血業務を継続した。



■事業報告

- ① 2018年度よりスタートした内科外来および整形外科外来での検査技師による採血業務を継続し、件数も少しずつ増加している。
- ② TQM活動において、人間ドック受検者への理解度・満足度向上をテーマに活動し、併せて生理機能検査室の環境改善にも取り組んだ。

薬剤課

■部門代表者

宮森 久志

■2019年度のトピックス、実績

- ① 抗癌剤の簡易懸濁マニュアルを作成した。
- ② 院内フォーミュラーの整備を開始し、2件の登録を行った。
- ③ 整形外科における生物学的製剤オーダーをプロトコルシステムに登録し、運用を開始した。

■事業報告

- ① 薬剤管理指導件数 2,163 件
- ② 無菌製剤処理科（抗癌剤）4,000 件
- ③ 病棟薬剤業務実施加算 4,240 件
- ④ 2名の薬学生の実習を受け入れた。
- ⑤ 2020年度は外科化学療法をプロトコルシステムに組み込み円滑な運用を目指す。

臨床栄養課

■部門代表者

羽根 由子

■2019年度のトピックス、実績

栄養指導件数の増加を図った。特に外来栄養指導件数は昨年度実績より2.35倍増加した。

	2018年度	2019年度
入院栄養指導件数	649	734
外来栄養指導件数	39	92

■事業報告

- ① 栄養指導件数の増加
内科患者への外来栄養指導を強化した。
- ② 管理栄養士の技術向上
管理栄養士1名がNST臨地修練に参加した。
学会・研修会に参加し知見を深めた。

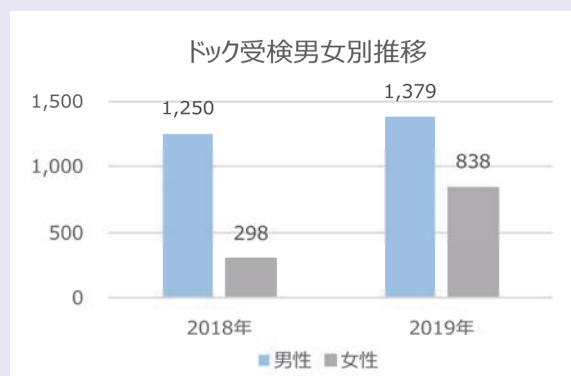
人間ドックセンター

■所属医師

佐賀 務、森 清男

■2019年度のトピックス、実績

人間ドック受検者数 2,217 人（前年度 1,548 人）
女性受検者 838 人（前年度 298 人）181%増加
TQM活動として、ドック食改善による顧客満足度向上をテーマに、①ドック食の見直し②2日目の昼食をドック食 or 外食の選択制とした。



■事業報告

- ① 受検者の多くは NTT 西日本の社員で NTT グループも健康経営の優良認定を受けている。福利厚生強化の一環として、昨年度より40才の節目ドックのみ必須であったものを30～60才まで5才刻みに節目ドックを拡大した。また、準社員にもドック受検枠を拡大したことから、女性を中心として669名の受検者が増加した。（昨年比143%）
- ② 当院の1日当たりの受検者数は、スペース、内視鏡医の確保、診察医の確保、オプションの消化などを考慮すると最大14名が限度。何回かは満杯に近い月があった。効率はとても良いと思うが、さらに増やすにはあらゆる面での見直しが必要ともいえる。
- ③ 今回の人間ドック実績に入っていないが、NTT 西日本北陸健康管理センターの産業医も受託している。週3日は同センターに出向し業務をこなしており、この産業医としての分野は、働き方改革の実施もあり、有望な分野と感じている。
- ④ 2日目昼食を、外食プラン選択可能とした結果、81%が外食プランを選択し、選択制プラン導入に約9割が満足しているとの回答を得ることができ、質の改善に寄与した。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿金沢病院）

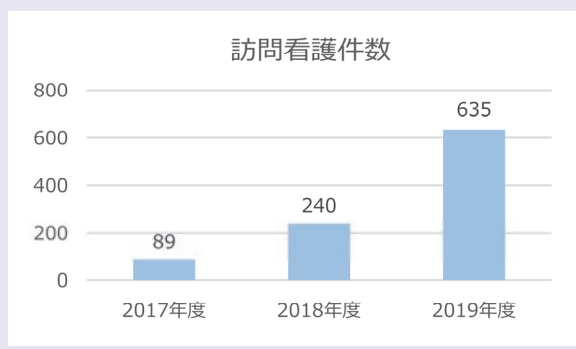
看護部

■ 診療部長

前大道 綾子

■ 2019 年度のトピックス、実績

- ① 7 月に訪問看護ステーションを開設した。利用者件数の獲得には苦慮したが、当院の特徴である抗がん剤投与や輸血投与を行い、看取りの看護を行った。
- ② 下半期、外来の化学療法件数が倍近くに増加し、対応できる看護師を育成した。新しい師長、主任が7月に誕生した。



■ 事業報告

- ① 病床稼働率平均値
目標：78% → 結果：76.2% 達成度 97%
師長間の連絡を密にし、病棟状況を把握し指導した。
また、他部署へ情報を発信した。
- ② 応援体制のシステムづくり
外来、病棟間のそれぞれの人員不足の際、部長の声掛け、師長采配で応援体制をとった。
- ③ 残業時間の削減
目標：300 時間/月 → 結果：271 時間/月
達成度 120%
- ④ 顧客満足度の増加
外来 目標：90% → 結果：99%
入院 目標：90% → 結果：96%
- ⑤ 医療機器、備品、滅菌物数のデータ化
- ⑥ 医師の協力のもと、稼働率は昨年とほぼ同じとなった。
利用者の獲得が今後の課題。引き続き、PNS の定着へ向けての取り組み（時間外の削減、離職率の低下対策）、応援体制のシステムづくりの熟成、師長間の部署訪問を行う。

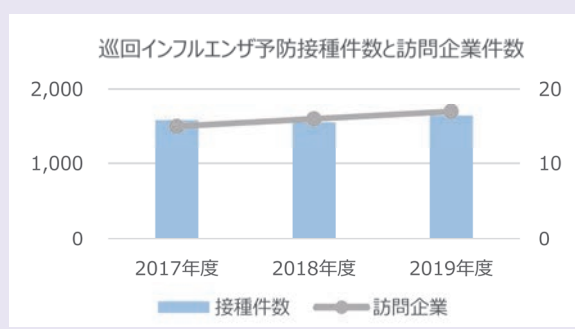
事務部

■ 部門代表者

森田 均

■ 2019 年度のトピックス、実績

- ① 2 月に病院機能評価の訪問審査を受審。資料の準備やマニュアルの整備など、病院全体で取り組み、講評の際には特に地域連携部門で高い評価をいただいた。
- ② 11 月に金沢市を中心に事業展開している通信事業者の要望に応え、企業のコールセンターを巡回し、インフルエンザ予防接種を実施。前年度より接種件数・訪問企業件数ともに増加した。



■ 事業報告

- ① 受付システム変更
11 月に受付システムを変更、受付番号が附番されて、患者さんに対して、名前ではなく番号での呼び出しが可能になり、プライバシーに配慮した体制が構築できた。受付補助役として、ホスピタルコンシェルジュを配置、患者サービスの向上にも繋がった。
- ② QR コード決済開始
1 月に QR コード決済を開始、現在「d 払い」「auPAY」「PayPay」「Alipay」「WeChat Pay」の 5 種類が使用可能。金沢市内で対応できる病院が増え、患者さんより QR コード決済の要望も増えてきたことにより、導入に踏み切った。人間ドックの利用の大半を占める NTT グループ職員の利用増加も見込まれる。

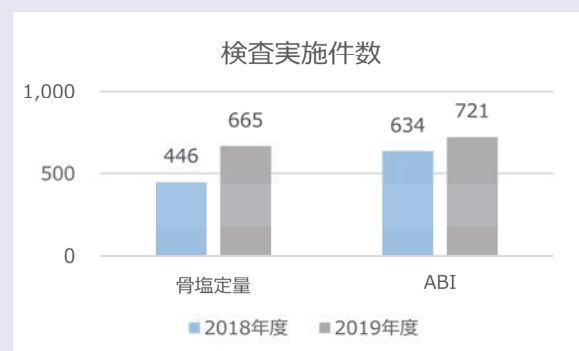
田鶴浜診療所

■部門代表者

廣正 修一

■2019年度のトピックス、実績

- ① 患者数：6,934人（前年比：97.6%）
- ② 1日当たり患者数：30人（前年比：101%）
- ③ 骨塩定量件数：665件（前年比：149.1%）
- ④ ABI件数：721件（前年比：113.7%）



■事業報告

心臓・血管系などを中心とした生活習慣病、骨粗鬆症、睡眠障害などのスクリーニング検査及び管理を前面に出し、「元気で長生きするために」をテーマにしたのプライマリー医療を実践している。これらの検査を行うことにより、早期発見に努め、専門的な治療が必要な場合には恵寿総合病院へ紹介し、早期治療に繋げることができた。

例えば、骨塩定量検査では、治療の必要な骨粗鬆症の患者に対し、348例のプラリア治療の開始を施行し、ABI検査では、血管外科的治療を必要とする重症末梢動脈疾患患者に対し、恵寿総合病院の心臓血管外科で血管バイパス手術症例も数例治療施行していただいた。

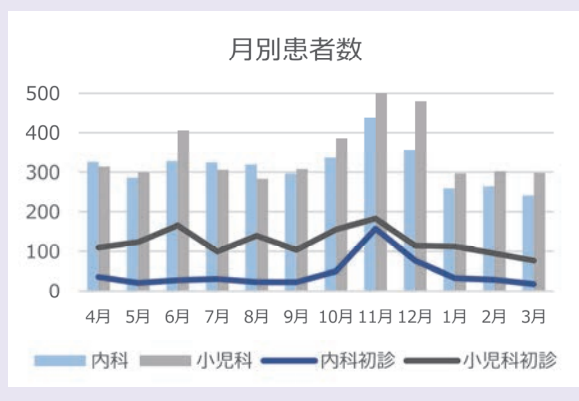
鳥屋診療所いきいき

■部門代表者

斎藤 靖人、中谷 茂和

■2019年度のトピックス、実績

- ① 患者数 内科：3,779人、小児科：4,207人
計：7,986人（前年7,482人）
- ② 紹介 61人（恵寿総合病院51人、その他10人）
- ③ いきいき 総利用者数：2,225人
平均稼働率：56.2%（目標80%）



■事業報告

- ① 鳥屋診療所
総患者数は、7,986人で、前年（7,482人）より患者数が増加した。地域唯一の小児科があるため新患、再来ともに患者数が増加した。
今後の課題として、診察のみの患者に対して、定期的な検査等を行い、疾病管理を確実にやっていく。
- ② いきいき
延利用者数は、2,225人で、前年度比32%減、稼働率も前年より14.2%低下し、大きく目標を下回った。新規利用者が減少していることが原因である。介護保険からの卒業を目指して、より自立に向けたリハビリを行っていることで、卒業できた利用者からは好評価を得ているので、強みとしてアピールして利用者増につなげていきたい。また、高齢者サロンでの講師を4回行っており、董仙会のアピールも行ってる。

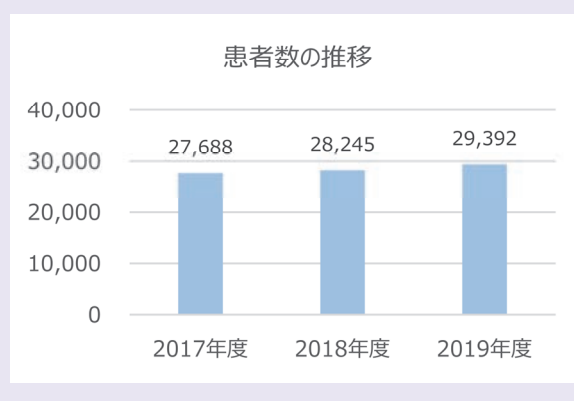
恵寿ローレルクリニック

■部門代表者

吉岡 哲也

■2019年度のトピックス、実績

カルテ情報閲覧サービス「カルテコ」で透析情報などが閲覧できる機能が追加された。クリニック内に操作端末を設置し、周知を行った。また、QRコード決済サービスの提供を開始するなど、利便性向上の取り組みを行った結果、患者数は29,392名となり、前年より増加した。



■事業報告

- ① 家庭医療科
総患者数は、9,400人で、前年（9,467人）と同等であった。一日当たりの患者数は40人で若干増加した。訪問診療件数は、432件で、前年（188件）より倍増し、外来⇔入院⇔在宅と継続して円滑に提供できる地域包括ケアを推進できた。
- ② 血液浄化センター
7月より、腎代替療法として腹膜透析を開始した。腹膜透析外来をオープンし、ライフスタイルに合わせて治療法を選択できるようになった。能登中部における腹膜透析の拠点となるため、更なる体制の強化と患者への周知を継続していく。

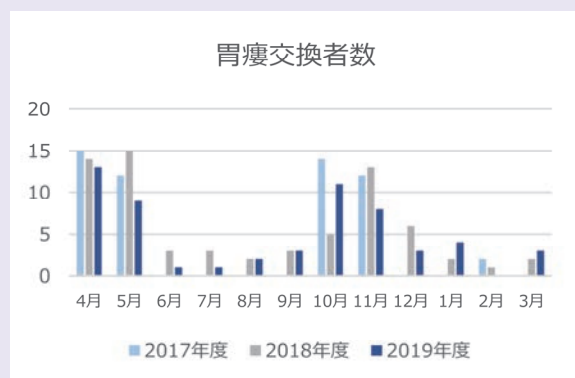
恵寿鳩ヶ丘クリニック

■部門代表者

宮本 正俊

■2019年度のトピックス、実績

患者数 689人（内、胃瘻交換者数が2019年度58人
前年69人 前々年55人）



■事業報告

- ① 昨年転換した介護医療院 恵寿鳩ヶ丘の併設医療機関として、入所者のレントゲン一般・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。
- ② 入所者の胃瘻交換及び経鼻経管栄養患者の胃管カテーテル交換後の造影撮影を行った。
- ③ 穴水町の特定健診事業及び近隣市町のインフルエンザ・肺炎球菌等の予防接種事業に参加し、地域住民への予防医療に努めた。

介護事業統括部門

■部門代表者

吉田 茂和

■2019年度のトピックス、実績

本年度は、春先にもまだインフルエンザウイルスが残る不安な滑り出しであった。上半期は通所事業で苦戦したが、下半期には入所事業が安定し、ほぼ前年度並みまで回復。入所及び通所事業の合計利用率では、平均利用率が 88.4% となり、前年度をわずかに下回った。



■事業報告

- ① 「介護事業統括部門」等の名称変更
董仙会の組織変更に伴い、「介護事業統括部」は「介護事業統括部門」へ、各事業所も「ケアマネステーション」「訪問リハビリステーション」「福祉用具レンタルステーション」へと、一般にわかりやすい名称へ変更した。
- ② 「Foot 活（ふっかつ）」プロジェクト 始動
人生 100 年時代を迎え、足から元気を取り戻すため「Foot 活」プロジェクトを始動させた。これに伴い、「Foot 活サンダル」や「Foot 活体操」の活用なども開始した。
- ③ 外国人技能実習生 受け入れ準備
年度内の受け入れを予定し、必要資格の取得者を養成したが、日本語教育の遅れや新型コロナウイルスの影響により、受け入れはできなかった。
- ④ 介護職員「特定処遇改善加算」算定
介護職員の更なる処遇の改善を図るため、「特定処遇改善加算」の算定を開始した。
- ⑤ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度
これまで継続的に取り組んでいるアセッサーは、年度末までに計 25 名、段位認定者は計 2 名となった。

介護事業統括部門

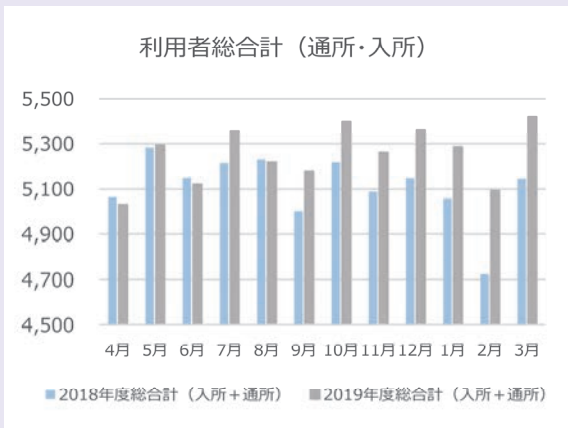
介護老人保健施設 和光苑

■所属医師

渡邊 博之

■2019年度のトピックス、実績

今年度の上半期は通所の利用者数が減り、伸び悩んでいたが、入所の利用者数維持により何とか前年比で同等だった。しかし、下半期では通所・入所共に利用者数が格段に増え、昨年比を大幅に超える2.8%の増加となった。



■事業報告

- ① 今期目標と達成度
 - 入所稼働率 96.6%（前年比 +2.8%）
 - 通所稼働率 80.7%（前年比 +0.1%）
 - 短期集中リハビリ加算 4,702 件（昨年比+1,471）
 - 認知症 " 1,767 件（昨年比+455）
 - 所定疾患療養費 500 件（昨年比+155）
 - 排泄支援加算 75 件（昨年比+29）
- ② 教育関係
 - 介護福祉士 3 名、介護支援専門員 1 名、
 - 社会福祉士 1 名、介護福祉士実習指導者 3 名、
 - アセッサー 2 名、技能実習管理者 1 名、
 - 技能実習指導者 2 名、技能実習生活指導者 2 名
 - 介護グランプリ予選会を実施（4 チーム）
- ③ 今後の課題
 - 下半期に入り入所の稼働率が上がった一方で、在宅復帰率は停滞した。改善には、本来の老健の役割である在宅復帰の成功体験を積み上げていく必要があると思われる。また、介護人材の不足があり、介護スタッフの質の向上、介護周辺業務が出来る方の雇用、外国人技能実習生の指導、育成が鍵となってくる。

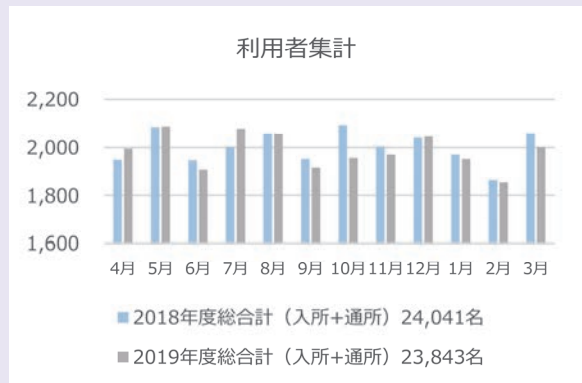
介護老人保健施設 鶴友苑

■所属医師

廣正 修一

■2019年度のトピックス、実績

2 年目を迎える施設長の方針のもと、利用者に喜んでいただけるように、「本質を大切に、優しさを提供し、相手の良い面を見てあげるようにしよう」をテーマとして、全面的に接遇の見直しを行った。出来るだけ優しく接し、利用者の良い面を積極的に褒めるように努めた。



■事業報告

- ① 利用者数（入所+通所）
 - 総利用延人数：23,843 名（前年比 0.83%減）
- ② 行事関係、クラブ活動
 - 入所花見外出、通所花見ドライブ、令和だワッショイ夏祭り、令和最初の長寿感謝祭、レクリエーション大会、クリスマス会、通所リハ外出（足湯など）、秋祭り、節分実施、書道クラブ実施
- ③ 実習関係
 - 金沢医科大学（医学科）、田鶴浜高校（看護・介護学科）、金沢学院大学（栄養学科）、七尾中学
- ④ ボランティア関係（定期的に来苑）
 - 紙芝居（入所）、将棋（通所）、書道クラブ（入所）
- ⑤ 出前講座開催・地域交流関係
 - 出前講座「高齢者への理解を深める」（田鶴浜小）
 - 認知症出前講座（相馬分館、金ヶ崎分館）
 - 運動会参加、苑訪問（田鶴浜小）
 - 慰問（田鶴浜保育園）
- ⑥ IT 化による業務改善
 - ダンスケアシステムを導入し情報伝達のデジタル化へ

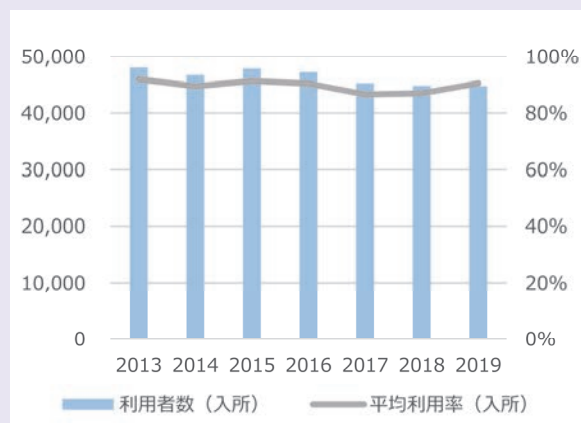
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■所属医師

宮本 正俊

■2019年度のトピックス、実績

県内初の「介護医療院」として2年目を迎え、地域に開かれた施設として「ケアフェスタ in 鳩ヶ丘」などの企画も定例化。利用者・職員双方の体への負担を軽減する車椅子型個浴槽を導入。



■事業報告

- ① 年間延べ利用者数は、44,818名（前年比±0%）
（ただし、定床143床から135床とし療養環境改善を図ったことで、稼働率は約3%増）。
- ② リハビリ専門職5名から8名（PT4名 OT3名 ST1名（非常勤））に増員。体制強化により利用者のニーズに応えた。
- ③ 昨年に続き11月に地域住民を対象とした「ケアフェスタ in 鳩ヶ丘」を開催した。参加者は昨年より多く、約90名だった。
「家族みんなで病気に負けない食事！」と題した管理栄養士の講演をはじめ、各種健康チェック、健康相談、アロマテラピー、作品展示等様々な企画を行い、高校生ボランティアも参加した。
- ④ ノーリフト介護（持ち上げない介護）のさらなる推進のため、浴室脱衣室を改修し、車椅子型個浴槽を導入した。利用者への安心安全、満足の向上と、職員の体への負担の低減に寄与した。

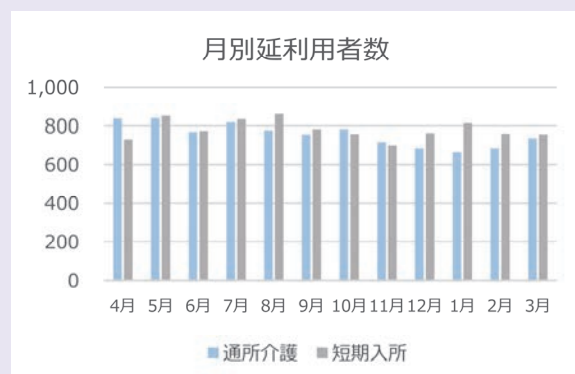
在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

諏訪 勝志

■2019年度のトピックス、実績

介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者1名取得、認定特定行為業務従事者資格を2名取得中、介護プロフェッショナルキャリア段位制度レベル2②1名取り組み中。
入所セットを開始し、短期入所利用者の利便性向上に取り組んでいる。



■事業報告

- ① 今期目標と達成度
稼働率90%以上を目標としたが、通所介護は84.0%、短期入所は85.6%で目標達成できなかった。通所介護、短期入所ともにアピールポイントを創り、毎月の居宅事業所への営業回りを行っている。
- ② 教育研修
喀痰吸引研修、介護キャリア段位制度など、スキルアップのために研修に参加している。また、中能登地区3施設合同で介護技術向上のため勉強会を開催し、日々の介護技術見直しを図った。
- ③ 今後の課題
介護技術の全体的向上と施設の強みをアピールし、利用したい施設を目指し、稼働率向上に努める。通所介護では、在宅生活が継続でき、より元気になってもらうためにFoot活プロジェクトを積極的に行っていく。短期入所では、喀痰・吸引など医療依存度の高い利用者、退院後で病状などの不安定な利用者の受入も検討し、職員教育を行っていく必要がある。

デイサービスセンター いこい

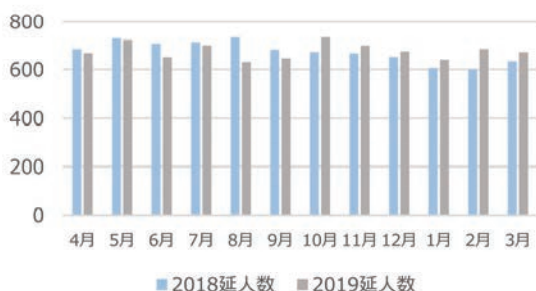
■部門代表者

愛徳 亜矢

■2019年度のトピックス、実績

- ① 個別機能訓練加算算定 90.8%
- ② 介護度改善者数 14/64名(21.9%)
- ③ 本人の状態に合わせて利用回数を見直し、増やした数 21/90名(23.3%)
- ④ 3/1(日)家族会に20名の参加予定だったが、中止

月別延利用者数



■事業報告

- ① 目標稼働率 85% 実績 平均 75.5%
達成度 88.8%
- ② 認知症対応型サービス実践者研修 1名修了
正職員は全員、外部の研修会に参加し、報告できた。
介護グループに向けて介護技術の勉強会や再確認ができた。
- ③ 介護度が高く、利用頻度の高い方が施設入所となり、新規で入られるのは回数制限のある予防の方が多く、延利用者数が増えていかない現状である。
- ④ 利用者を増やすことが最優先課題であり、アピールポイントとしては、健脚に力を入れていきたい。1周 33m、3周で 100mのつくりを利用し、歩いて筋力を維持できるだけでなく、距離を伸ばしていくことの楽しさや達成感を味わっていただきたい。Foot 活や運動指導士による筋力アップの活動も合わせてアピールし、利用者数を増やしていきたい。

けいじゅ一本杉

■部門代表者

高木 ひとみ

■2019年度のトピックス、実績

- ① 12/1に見学会を開催し、47名の参加があった。
- ② 2階の階段をスロープにし、手すりを設置して、歩行を安全に、車椅子でも対応できるようにした。
- ③ 1階の地域交流スペースを貸し出し、地域の皆様に利用して頂いた。

登録者数比較表



■事業報告

- ① 目標登録者数 26名 実績 22.3名
達成度 85.5%
- ② 地域とコラボレーション
4/29~5/12 花嫁のれん展に協賛
7/24 打ち水!「地球の温度を1度下げよう」
9/23~9/28 「けいじゅ一本杉大感謝祭」
11/3 秋の太市「ちよんこ山保存会」と協働。
12/1 「一本杉見学会」
12/25.26 「クリスマスお楽しみ会」
- ③ 利用者の満足度向上
誕生日には地域のレストランで夕食をするなど、楽しんでいただける企画を実行した。
- ④ 施設入所待ちで、泊まり中心に利用を希望される方が増えている。個室での対応ができないため、条件がクリアできず、利用に繋がらないこともあり、今後の課題と考える。

恵寿みおや

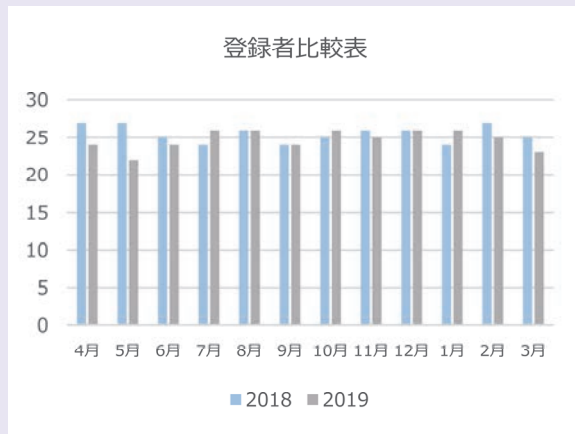
■部門代表者

古木 恵実子

■2019年度のトピックス、実績

みらいカフェを年間10回開催し、計113名の参加者数となった。

7月に恵寿みおや見学会、11月にみおや感謝祭を開催した。



■事業報告

- ① 目標登録者数 29名 実績 月平均 24.75名
達成度 85.3%
- ② 認知症みらいカフェ
職員講師によるみらいカフェ開催
4月 健康体力測定と頭の体操をやってみよう！
5月 可愛い立体切り絵を作ろう
6月 食中毒に気をつけよう
9月 可愛い立体折り紙“川下りの舟”を作ろう
10月 リボンでハットキーホルダーを作ろう
11月 恵寿みおや感謝祭
12月 お正月のフラワーアレンジメントづくり
1月 折り紙でおひなさまを作ろう
- ③ 資格取得
認定特定行為業務従事者 1名
認知症ケア指導管理士（初級）1名
整容介護コーディネーター 2名

ケアマネステーション恵寿

■部門代表者

高松 由紀子

■2019年度のトピックス、実績

7月から事業所名を「ケアマネステーション恵寿」に変更した。
新しく2名のケアマネージャーが配属となり、総勢14名で居宅介護支援業務にあたった。



■事業報告

- ① 年間延べ利用者数 5,272人（前年比-3.7%）
新規利用者数 147人
- ② 加算
入院時情報連携加算 229件
退院・退所加算 196件
初回加算 154件
今年度は入退院者数が前年度と比べて多く、入院時連携加算は前年比+14.5%、退院・退所加算は前年比+13.3%であった。
- ③ 資格
主任介護支援専門員 2名更新 現在6名

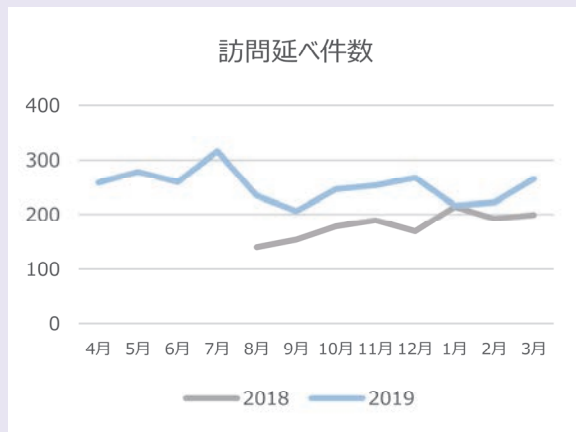
恵寿総合病院訪問看護ステーション

■部門代表者

受川 志津子

■2019年度のトピックス、実績

能登初となる腹膜透析患者への訪問を開始し、特定行為のできる看護師（呼吸器、褥瘡）と連携した結果、訪問延べ件数が拡大した。



■事業報告

- ① 訪問延べ件数は増加している。
それに伴い収入も増加傾向にある。
- ② ターミナルや医療度の高い利用者も増えてきている為、研修会参加やステーション内での勉強会を行うなど知識を深める努力を行っている。
また、利用者個々のケアについてカンファレンスを重ね、必要時利用している事業所や認定看護師とのカンファレンスも開催している。人生会議も1度開催した。
- ③ 恵寿訪問看護ステーションの強みである、恵寿総合病院や法人内の施設との連携を行うため、必要時病棟や利用施設へ出向き情報共有を行っている。今後も看看連携ができるよう取り組んでいきたい。
- ④ 医療度の高い利用者が増えてきており、土・日の緊急呼び出しが多くなってきている為勤務体制の整備を行った。

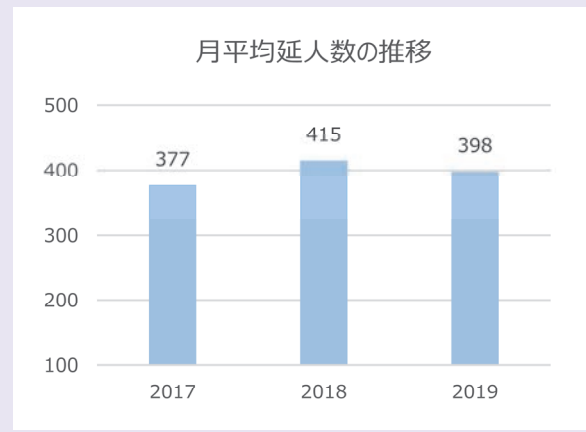
訪問リハビリステーション恵寿

■部門代表者

高松 由紀子

■2019年度のトピックス、実績

7月に事業所名を「訪問リハビリステーション恵寿」に変更。昨年度と同様に、病院スタッフに訪問リハビリの紹介を働きかけ、またケアマネ事業所にもアピールし、新規利用者の獲得に取り組んだ。



■事業報告

- ① 訪問件数：年間延べ件数 4,775 件
月平均 398 件
新規利用者数：60 人
訪問件数は前年度比 - 4.1%、新規利用者数は前年比 + 9.1%であった。
- ② 短期集中リハビリ加算：302 件
- ③ 社会参加支援加算：3,903 件
- ④ リハビリテーションマネジメント加算：1,023 件
- ⑤ 今年度は訪問件数を伸ばすため、担当スタッフが訪問できない場合には他のスタッフが代わりに訪問して対応できるよう調整を行った。

福祉用具レンタルステーション恵寿

■部門代表者

高松 由紀子

■2019年度のトピックス、実績

- ① 7月より、事業所名を「福祉用具レンタルステーション恵寿」に変更した。
- ② 10月より、毎月「めぐみニュース」を発行し、おすすめ商品を紹介してキャンペーンを行った。
- ③ 最新の福祉用具や介護ロボット等の研修会やフォーラムに参加し、新商品の知識を深めた。

■事業報告

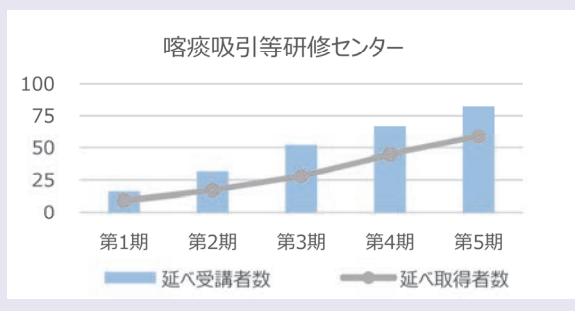
- ① 年間延べ利用者数：2,137人（前年比+1.6%）
- ② 年間貸与品目数：7,333（前年比-1.9%）
- ③ 利用者数及び貸与品目数を増やせるように、今後も継続して事業所のPR活動を行っていく。

喀痰吸引研修センター

■部門代表者

吉田 茂和

■2019年度のトピックス、実績



■事業報告

- ① 2017年度に開講してから、今年度で第5期を迎え、これまでに延べ84名の基本研修修了生を輩出した。
- ② このうち、2019年度までに実地研修を修了して県の特定行為の登録を行った受講生は58名にのぼった。
- ③ また、新たに指導者研修を修了した看護師4名を加え、現地実習の指導者は19名となった。

社会事業統括部

社会事業統括部門

- 部門代表者 ■オブザーバー
進藤 浩美 神野 厚美

■2019年度のトピックス、実績

法人が行う社会事業をまとめた。

医療福祉 ショップめぐみ	当法人が開発したのもも販売可能
	新規発売：溶けない脳活アイス、foot 活サンダル、遺伝子解析サービス
デリカサブライ センター	けいじゅヘルスケアシステム全施設の 給食のおかず工場
	新規導入：野菜洗浄オゾン水の廃止
ベンリー 七尾店	便利屋事業
	1周年 : 黒字転換に至らず
(医師会立) 七尾看護 専門学校	経営管理業務を行うために職員出向
	新規取組：副校長を医師会職員から 選定

■事業報告

- ① 医療福祉ショップめぐみでは、医療、介護に関するものと当法人が開発したもの、企業と提携したものを販売している。本年は、嚥下等に問題のある方、がんなどで食欲が落ちた方などに栄養補助食品として利用できる溶けない脳活アイス4,300個販売した。また、介護でfoot活プロジェクトを開始したが、その際使用するサンダルの販売も行った。ジェノプラン社の遺伝子解析サービスを開始し、未病に結び付けたい。
- ② デリカサブライセンターでは1日5,000食を超え、チルドおかずを運ぶカートで、ゾーニングがくずれつつあるので、場所をとらない保温のきくカートを企業と開発中である。
- ③ ベンリー七尾店は、販促活動を行っているものの、収益にばらつきがあり、さらにゴミ廃棄を他企業に委託しているため、利益を上げるためには、資格取得が急務となっている。
- ④ 七尾市医師会立の看護学校の職員の1/2は当法人から出向してもらっていたが、現在少しずつ減らし、七尾市医師会での経営管理力強化をはかっている。

七尾看護専門学校

- 部門代表者
山崎 茂弥

■2019年度のトピックス、実績

入学生の状況・卒業生（看護師として）の就業先は以下の通りである。

入学生の状況

	能登中部	能登北部	石川中央	南加賀	県外	合計(人)
2018	8	19	11	1	2	41
2019	8	23	9	0	2	42

卒業生の就業先

	能登中部	能登北部	石川中央	南加賀	県外	合計(人)
2018	3	20	9	0	2	42
2019	3	18	9	0	4	34

■事業報告

- ① 主な行事
 - 4月 入学式
 - 6月 社会人向けイブニングガイダンス 参加者8名
学習会「実習指導の実際」参加者38名
 - 7月 オープンキャンパス 参加者49名
 - 11月 戴帽式
入試説明会
 - 3月 卒業式 ※新型コロナウイルスの影響により中止
仮入学
- ② 入学試験
 - 11月30日 推薦入学試験
 - 1月23日 一次入学試験（一般・社会人）
 - 2月20日 二次入学試験（一般・社会人）
- ③ 看護師国家試験
 - 2月16日第109回看護師国家試験 37名受験
- ④ 進路ガイダンス・高校訪問
 - 進路ガイダンス 7回参加
 - 高校訪問 6月・10月実施

徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

■2019年度のトピックス、実績

全体の延べ利用者件数は、24万9,400件で、平年並みを維持した。

障がい者・高齢者の利用者件数についても、平年並みを維持。2月・3月は、新型コロナウイルスの影響が若干あった。

健康増進施設アスロン（七尾市指定管理）は、事業契約満期で、2020年3月31日で終了した。



■事業報告

- ① 「生産性を向上せよ！」をテーマに、各事業所がそれぞれの目標を掲げ、強みを活かし、一致結束して取り組んだ。
- ② 障がい者事業局：身体・知的・精神の3障がいに加え、発達障害、高次脳機能障害等にも取り組んだ。入所利用者は年々高齢化・重度化が進み、医療的ケアのニーズが高い。通所利用者は日中活動・働くニーズが高く、機能訓練利用者は介護保険より、現サービスの継続を望んでいる。
- ③ 高齢者事業局：新しい価値観・ニーズに対応するため、Wi-Fiの導入、脳トレ・ゲーム、生活総合機能改善機器 DAM の導入、カルチャー教室、事業所内通貨の導入、食の創造（加賀屋とのコラボ、海鮮丼）、ベンリーとのコラボ等、時代の流れとニーズに対応する新しいチャレンジを行った。
- ④ 事務局：働き方改革（育児休暇・同一労働同一賃金）の対応、職員教育の推進（資格習得支援・研修会の開催他）、積極的な求人活動、徳充会中期計画書の策定を行った。
- ⑤ 地域貢献：新規に高階地区の障がい者移送、穴水限界集落地区の高齢者の買い物外出の支援を加えた。
- ⑥ 新型コロナウイルス対策：一致団結して感染予防に取り組み、継続中。

障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

■2019年度のトピックス、実績

利用者数は、若干の減少が認められるが、12万2千人を維持した。生活介護系（青山・穴水・精育園）、機能訓練（青山リハ）とともに、ほぼ横ばいの実績であるが、感染症の影響（入院・他）で、稼働率が減少した。

どの施設・事業所でも高齢化・障がいの重度化が進んでいる。



■事業報告

- ① 「新しい地域ニーズと生産性向上」をテーマに取り組んだ。
- ② さいこうえんの障害者生活支援センター：地域活動支援センター、相談支援、障害者就業・生活支援センターの3事業は現状維持。地域生活支援拠点等整備事業に重点を置いた。
- ③ セエレナ青山：現状維持
- ④ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：機能訓練は現状維持、就労移行支援の定着率は全国トップレベル。
- ⑤ ワークセンター田鶴浜：洗濯事業は順調、利用者の高齢化と夏場の作業環境に課題あり。
- ⑥ 青山彩光苑ライフサポートセンター：利用者個々人の活動を尊重する支援を実施。外出企画では、水族館・動物園・外食など延べ250人が参加した。
- ⑦ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：QOLを高める支援（生活場面でする）やスポーツ活動、作業活動や創作活動に力を入れて支援した。
- ⑧ 石川県精育園：地域行事の積極的参加、障がい者週間等の利用者作品展示、こども園との共同活動など、地域貢献活動に重点。開設2年目の自立ホームけいじゅは、短期入所、相談支援キララ、居宅支援の稼働率はアップした。

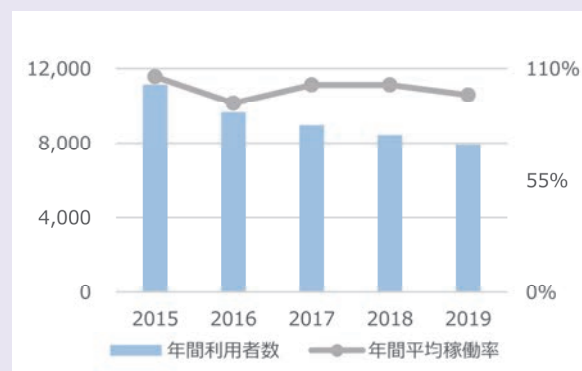
障がい者事業局 青山彩光苑 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2019年度のトピックス、実績

就労移行支援事業において、前年度同様に一般就労を開始した全員が、退職することなく継続して働くことができています。定着率の低さを解消するために国が設定した数値目標を大幅に上回ることができ、働きたい障がいの貴重な資源として地域貢献を果たしている。



■事業報告

- ① 目標と達成度
入所稼働率(短期入所含む)を80%以上とする。
→71.8%であったため、達成度としては89.7%
機能訓練稼働率を100%以上とする。
→96.9%であったため、達成度としては96.9%
就労移行支援稼働率を94%以上とする。
→84.8%であったため、達成度としては90.2%
- ② 通所、入所を問わず、機能訓練事業利用者の高齢化に伴い、利用終了や別の入所施設へ移行するケースが目立った。介護、介助に費やす時間も全体的に増加し、職員の意識変革が必要とされる時代に突入したと実感する一年であり、施設としての新たな価値観の構築が急務と感じた。

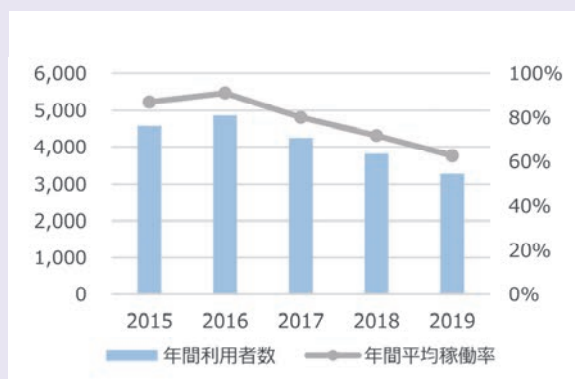
障がい者事業局 青山彩光苑
さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 晋

■2019年度のトピックス、実績

年間利用者数 3,266 名、前年度比 14.4%減であった。
平均稼働率 62.6%、前年度比 12.8%減であった。



■事業報告

- ① 七尾市・中能登町からの委託を受け、地域活動支援センター I 型事業を実施している。地域で在宅生活している障がい者が通所し日中活動を行っている。生活支援員 3 名を配置し、主に生産活動（作業）や創作活動、季節行事（花見会やクリスマス会など）、調理プログラムやレクスポなど余暇活動も行った。また、地域美化活動（除草作業）や、地域住民参加型の創作活動、地域の教室（健康教室）に参加するなど地域共生型を意識した取り組みを行った。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・定障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 3,180 件）。七尾市・中能登町における地域生活支援拠点等整備事業に取り組んだ。
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は、障がい者・企業等からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数 2,444 件、・就職件数 44 件、・職場実習件数 20 件）。

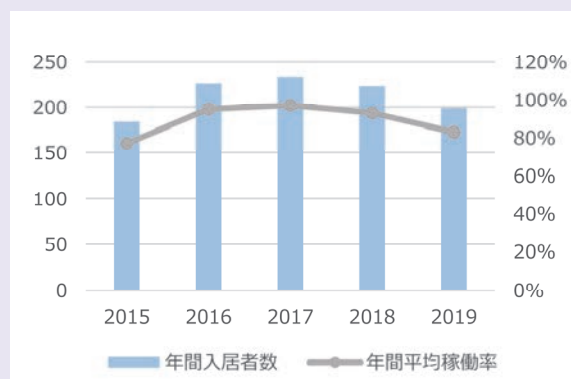
障がい者事業局 青山彩光苑
バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者

瀧野 利徳

■2019年度のトピックス、実績

入居者の高齢化や障がいの重度化により、住まいの場の変更を検討する必要がある者も増えてきている。定員 20 名に対し、16～17 名で推移し大きな変化は見られていない。



■事業報告

長期入院により 1 名が退去、新規入居者は 1 名であった。
年間平均稼働率は前年比 10%の減少となった。

<入居者の法人内サービス利用の内訳> ※重複利用を含む

（障がい者活動系）

リハビリテーションセンター	5 名
ワークセンター田鶴浜	9 名
障害者生活支援センター	1 名

（高齢者活動系）

ふれあいの里	1 名
--------	-----

（生活支援系）

ローレルハイツ恵寿（ホームヘルプ）	3 名
-------------------	-----

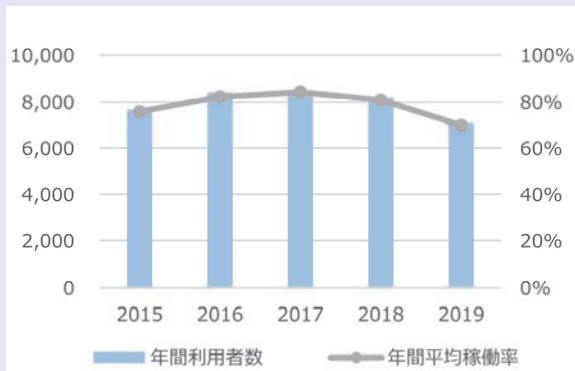
障がい者事業局
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

池田 浩

■2019年度のトピックス、実績

利用実績は、稼働率目標 85%に対し、70%昨年対比 11%減、延べ利用者数は7,103名で昨年対比 1,113名減となった。事業総売上高は、ほぼ横ばいであるが、経費削減等により、収益は倍増した。事業に関しては順調に推移している。



■事業報告

- 2019年度について新規利用者は2名のみであり、一方退所者は6名であった。退所者6名中4名が高齢を理由に退所した。利用者の高齢化が顕著に影響した結果となった。長期間休む利用者もおり稼働率は伸び悩み、減収となった。利用登録者も、31名となった。利用者の高齢化の問題とともに、今後も利用者確保について継続し取り組んでいく。
- 授産事業においては、行政からの委託業務も継続委託され安定収入となっている。また洗濯事業も順調に推移し、他事業においても予定通り進行し、授産事業の安定化に結び付いている。今後は新型コロナウイルス騒動にて若干の売上減が予測されるが事業間でカバーしながら進めていく。

障がい者事業局
青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2019年度のトピックス、実績

強度行動障害者に対する支援の方法を職員間で統一する取り組みを行った。研修参加と伝達講習を通し、利用者の特性を理解した対応が行えるようになり、利用者も落ち着いた様子が見られた。その他、委員会活動の成果により、褥瘡発生率0%を達成。



■事業報告

- 個別の利用者の活動を尊重する支援を実施。おしゃべりに対する興味に応えるため、昨年のフェイスクア・メイクに加え、エステティシャンを招いた。女性だけでなく、男性利用者の希望もあり、昨年よりも幅の広い取り組みとなった。
- 外出企画では、水族館・動物園・外食などに延べ250人が参加。利用者の高齢化に伴い、屋外で行っていた運動会を屋内で実施し、「レクリエーション大会」とした。以前よりも利用者の参加人数も増加。体と脳を動かすことや大声で声援を送ることで、ご家族との距離が縮まり、満足度の高い企画となった。
- 食事支援では、災害に備え、介護職員による非常食の調理訓練をおこなった。実際に行うことで、現場の動きに合わせたマニュアルに改訂することができた。
- 年間稼働率：
 - 生活介護事業 115%
 - 施設入所支援事業 99%
 - 短期入所事業 76%

障がい者事業局
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

細木 俊逸

■2019年度のトピックス、実績

地域における公益的な取り組みとして、地元の穴水中学校において、福祉教育（車いす体験、視覚障がいの疑似体験、ポッチャ体験）を行い、障がいへの理解を深めてもらうことができた。また、ノーリフト（持ち上げない、抱えない介護）の取り組み、ケアの質向上のため、個別支援の実現に向けたケアガイドラインに基づいて取り組みを行い、職員の意識は向上している。



■事業報告

- ① 生活介護入所稼働率は 98.7%、目標稼働率は 98.0%であり、目標達成率は 100.7%であった。
- ② 生活介護通所稼働率は 97.0%、目標稼働率は 95.0%であり、目標達成率は 102.1%であった。
- ③ 施設入所稼働率は 98.9%、目標稼働率は 98.0%であり、目標達成率は 100.9%であった。
- ④ 短期入所稼働率は 90.6%、目標稼働率は 88.0%であり、目標達成率は 103.0%であった。
- ⑤ まとめ
今年度は、利用者の生活の質（QOL）を高めるために、訓練場面でできることを生活の場面でできるようにすることやスポーツ活動、作業活動や創作活動に力を入れて支援を行った。今後も利用者の QOL 向上のため支援を行っていく。

障がい者事業局
石川精育園

■部門代表者

今寺 忠造

■2019年度のトピックス、実績

- ① 強度行動障害者への支援力を高める目的で研修派遣の実施、職員へ資格取得の支援を行い、新たに 6 名が介護福祉士の資格を取得した。
- ② 日中活動支援として地域の行事に積極的に参加し、障がい者週間による利用者の作品展示、こども園との共同活動などを行った。
- ③ 開所 2 年目となる自立ホームけいじゅの GH（定員 20 名）は、併設事業として、短期入所（定員 4 名）、相談支援キララ、ヘルパーステーション銀河（居宅支援）、地域交流スペース等多機能型の事業を展開した。



■事業報告

- ① 施設入所の稼働率は前年度並みで、3 名入所増を達成できなかった。生活介護では 9 名通所の利用者を維持している。5S の実践により整理整頓の意識は向上したが、居室環境の向上を引き続き取り組む必要がある。地域バス運行支援の実施により地域貢献ができたと思う。
- ② 施設入所利用者の 65 歳以上が 28.2%を占め、最高齢者が 85 歳。高齢化の進行に伴う利用者の機能低下が顕在化し、泌尿器系の疾患に伴う通院支援が増えている。転倒予防・便秘対策・嚥下評価など事業所全体で多職種による支援に取り組んだ。また、感染症の予防についても職員一丸となって取り組んでいる。
- ③ 家族からは、居室の個室化など設備面の充実を希望する意見が寄せられており指定権者である石川県に対して施設整備の必要性を提言している。GH においては高齢な方が 8 名在籍しており介護保険との連携強化が必要になっている。その他、福祉人材の確保と育成が課題である。

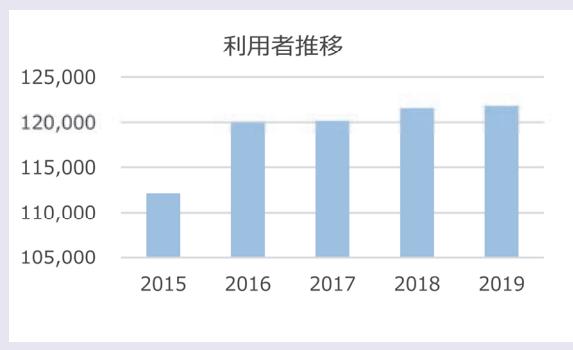
高齢者事業局

■部門代表者

吉田 茂和

■2019年度のトピックス、実績

本年度は上半期の通所事業などで苦戦があったが、特養・ケアハウス・サ高住など、入所系事業が比較的順調に推移し、全体の利用者数は前年に比べ若干が増加した。Wi-Fiの整備も進め、団塊の世代など新たな高齢者世代を意識したサービス提供にも取り組んだ。



■事業報告

- ① エレガントなぎの浦・アンジェリなぎの浦：特養・通所ともやや苦戦。館内に Wi-Fi を導入し、団塊世代の高齢者への対応として、タブレットを活用した脳トレなどに取り組んだ。また、ケアハウスでは簡単クッキングでのお茶会等を開催した。
- ② エレガントなつるはま・もみの木苑：特養は入院者が続出し稼働率が前年を若干割り込んだ。活動としては、利用者・家族の希望を個別に支援するため「夢実現プロジェクト」を計画し実施した。また通所のもみの木苑では、新規利用者の増加などがあり、前年の稼働率を上回った。地域貢献の一環として認知症カフェの送迎を開始した。
- ③ ふれあいの里：活動と参加の活性化を図り稼働率は上昇。カルチャー教室やイベント開催、社会参加活動にも積極的に取り組み、利用者や家族にも好評を得た。
- ④ ローレルハイツ恵寿：サ高住・ケアハウスともほぼ満室を維持。月1回のiPad教室を開催し、脳トレに活用したり、個別アルバムや家族への案内等にも活用した。さらに、インスタグラムも開設。また、和倉温泉あえの風とコラボ企画で「おでかけランチ」を年2回企画。ペンリーとのコラボ企画も実施した。

高齢者事業局

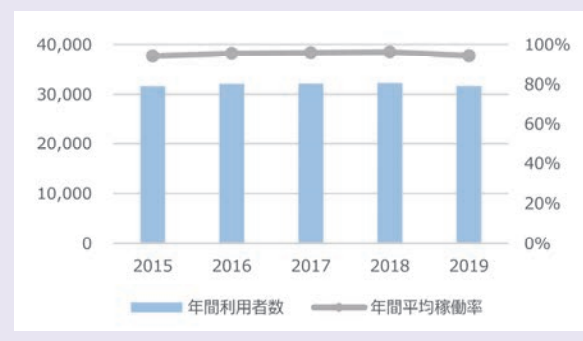
エレガントなぎの浦・アンジェリなぎの浦

■部門代表者

江沢 恵太

■2019年度のトピックス、実績

Wi-Fiを導入し、タブレットを活用した支援を実施。脳トレやゲーム、動画鑑賞等で活用した。タブレットを活用した業務の電子化を進め、効率化を図った。また、生活総合機能改善機器 DAMを導入し、運動、口腔、認知機能の維持向上へとつながった。ケアハウスでは高級旅館でのランチ外食支援等新たな支援を導入し、意欲的な参加があった。



■事業報告

- ① 目標稼働率は、特養 96%、ショートステイ 96%、ケアハウス 100%、デイサービス 86%。平均稼働率実績は、特養 94.2%、ショートステイ 84.5%、ケアハウス 99.4%、デイサービス 81.6%であった。全てのサービスにおいて目標を下回った。特にショートステイ、デイサービスの在宅サービスの稼働率の低下が見られた。実人数の減少に対する今後の対策が重要である。
- ② 特養では、食事、排泄、移乗・移動のグループによる専門技術の向上を目的に課題や問題点に対して改善への取り組みを提案、実施した。ケアハウスの支援として、これまでの活動機会提供に加えて、簡単クッキングでのお茶会を開催し、コミュニケーションの機会ができた。自ら何かを開催することは難しいが、そのような機会を提供することで、活動的な生活を過ごすことができるため、今後も利用者の意見を伺いながら実施していく。
- ③ 職員の教育研修については、継続的な研修は行っているが、今後はより実践型の研修会を開催していきたい。

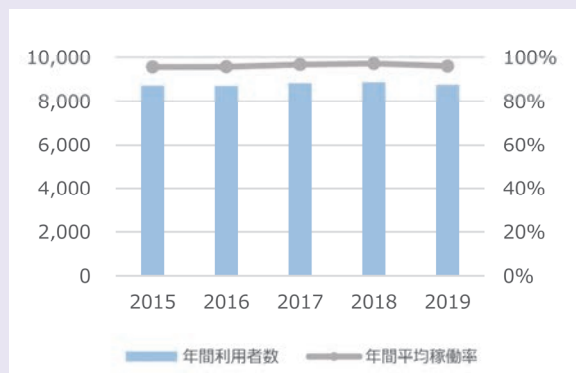
高齢者事業局 エレガントつるはま・もみの木苑

■部門代表者

山外 初美

■2019年度のトピックス、実績

エレガントつるはまでは夢実現プロジェクトを計画し、利用者や家族の要望を実現できるよう個別支援を行い、実施できた利用者、家族に喜んでいただいた。もみの木苑では、地域へのボランティアとして、認知症カフェの送迎を行い、移動手段のない方から喜んでいただき、地域との交流も広がった。



■事業報告

- ① 目標稼働率は、エレガントつるはま（特養）99%、デイサービスセンターもみの木苑 90%→平均稼働率実績は、エレガントつるはま 95.9%、もみの木苑は、86.5%であった。特養については、会議でベッドコントロールについて協議し迅速に対応していたが、慢性疾患で入院する利用者が増えてしまい、結果的に稼働率は減少した。デイについては、入院などで利用休止や中止もあったが、新規利用者も徐々に増え、回数を増やしてほしい利用者もあって、昨年の稼働率を上回った。
- ② エレガントつるはま、もみの木苑では、地域密着型施設として、夏祭りなどの行事等には、地域の民生委員や介護支援サポーター会に協力していただいた。また、その他の活動として地区の祭りへの参加や学童・保育園等との地域交流も行った。

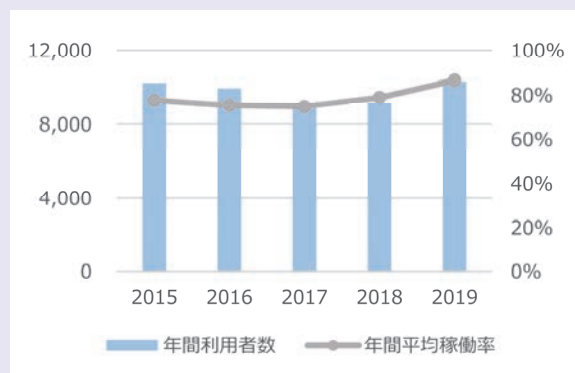
高齢者事業局 ふれあいの里

■部門代表者

芳原 哲弥

■2019年度のトピックス、実績

活動と参加を活性化させるために事業所内通貨「フーレ」を発行し、様々な特典を設けることで多くの方々に楽しんでいただけた。カルチャー教室やイベントを毎日開催すると共に、社会参加活動にも積極的に取り組むことで、利用者やご家族にも好評を得ることができた。



■事業報告

- ① 通所介護の年間稼働率目標は85%→実績86.8%で達成度は102.1%だった。活動と参加をコンセプトとしたメニューが利用者やケアマネからの支持を受けることができ、前年度の稼働率（78.9%）を大きく上回る結果となった。
- ② 訪問入浴は72件/月以上の提供を目標とする→実績65.4件で達成度は90.8%だった。昨年度より多くの新規を受け入れたがその多くがターミナルケアの方であり定着した利用には至らないケースが多かった。→新規16件（前年度9件）
- ③ 配食サービスの目標配達件数2,000件/月→実績は1,799件/月で達成度は90.0%だった。七尾市の受付の基準が前年度よりも厳しくなり、新規も減少した。

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

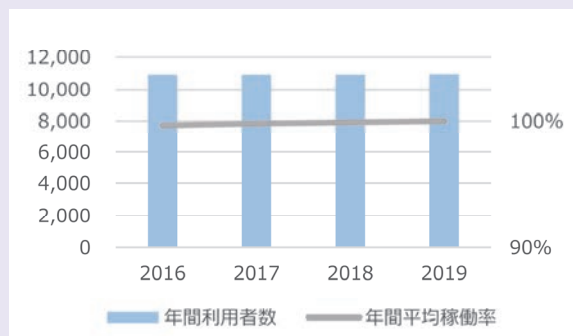
■部門代表者

内田 かおり

■2019年度のトピックス、実績

開設5周年を記念して、5つの新たな取り組みに挑戦した。

- ① 加賀屋とコラボ・あえの風ランチ
- ② iPad 教室
- ③ 海鮮どんぶり&香箱がに
- ④ 生で落語
- ⑤ 御供田幸子ショー（新型コロナウイルスで中止）



■事業報告

『一歩先へ』

- ① 単価を上げる
ケアハウス：295,000⇒286,000
サ高住：144,000⇒135,000
ヘルパー：32,000⇒31,700
加算の途中中止、入院者の増が、減収の要因。また、全館通して、入居者の入れ替わりが多かった。（他施設、入院等）
- ② タブレット活用
月1回、iPad 教室を開催。脳トレに活用。申し込みの際に、タブレットにて室内案内に活用。個別アルバム、家族への案内等に活用。また、Instagramの開設。
- ③ 個別対応の充実
和倉温泉あえの風とコラボ。おでかけランチを夏・冬と2回企画。ベンリーとのコラボ企画は、夏祭りにベンリー無料券を景品にし、宣伝協力。
- ④ Only 1の確立
職員一人一人が専門分野、特技等のスキルアップにつとめた。特に、Instagramの開設では、日々の更新から、全国各地より“いいね”があったり、お友達になったりと、つながりが広範囲となった。
- ⑤ 人材育成と質の向上
開設5周年祭の予定が、新型コロナウイルスにて中止。

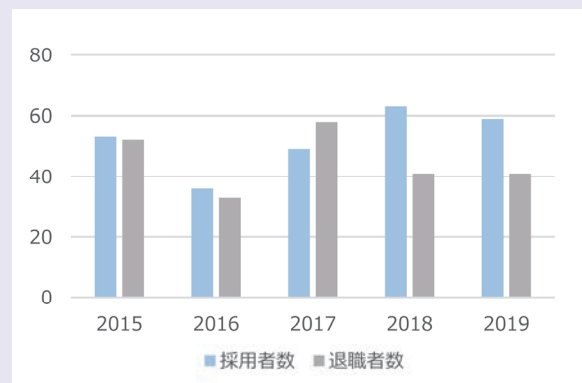
事務局

■部門代表者

山下 賢

■2019年度のトピックス、実績

2019年度における採用者数は59名、退職者数は41名で差し引き+15名となった。また、期首の職員総数は450名であった。



■事業報告

- ① 外国人労働者受け入れ準備に着手
- ② 恵寿こころの相談室の開設
- ③ 従来の特待改善交付金に加え、特別処遇改善を2019年下期から開始し、3月に直接処遇職員等に手当金を支給。
- ④ 徳充会中期計画書を策定
- ⑤ 地域における公益的取り組み（新規）
 - a) 移動支援事業（高階地区）
 - b) お買い物支援事業（穴水地区）
 - c) 送迎サービス事業（田鶴浜地区）
 - d) 生活困窮者就労訓練事業
- ⑥ 補助金内示
 - a) 社会福祉施設等施設整備費補助金（穴水ライフサポートセンター）
 - b) 日本財団 ワゴン車1台購入

事務局 健康増進センターアスロン

■部門代表者

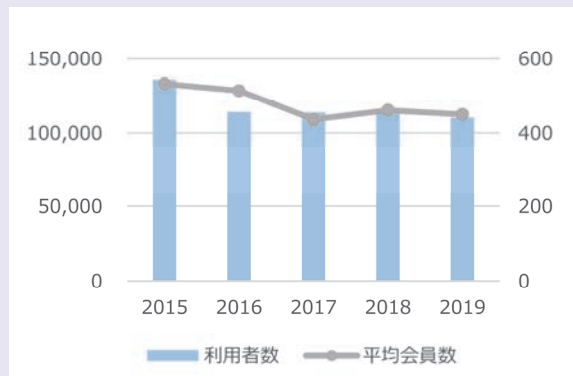
一谷 真澄

■2019年度のトピックス、実績

会員数増への取組み。

『春／秋得々プレゼントキャンペーン』の実施

新規入会者を紹介した会員に対しアスロンオリジナルグッズをプレゼント。入会者は入会金が無料となる。



■事業報告

- ① 介護事業【基準緩和通所型サービス（運動型）】の取組み。2017年4月6日より開始。
- ② 中能登町との連携
〈集団型〉
対象者：65～85歳未満の高齢者
内容：運動機能向上プログラム3ヶ月間（1クール）
〈個別型〉
対象者：特定保健指導に該当した方。
週3回アスロンへ通える方。
現在アスロンの会員ではない方。
内容：運動を中心とした生活習慣病予防の為の個別支援をアスロン会員として3ヶ月実施する。定員：10名
〈保育園指導〉
中能登町 5園
（さくら、こすもす、たんぼぼ、さくら、あおば）
対象者：年長組（5～6歳児）
内容：身体を楽しく元気に動かす事を学ぶ(キッズエアロ)

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

事務局 徳充会 総務部

■部門代表者

山下 賢、畑中 浩樹

■2019年度のトピックス、実績

- ① 働き方改革への取組、育児休暇の延長、同一労働同一賃金への対応。
- ② 停電対策マニュアル（青山彩光苑版）を作成。
- ③ 採用実績（正規職員15名、臨時職員23名）

■事業報告

- ① 総務課企画研修及び説明会の動画配信開始。
- ② 勤怠管理システムの開発、運用。
- ③ 福サポいしかわとタイアップした。
就職説明会の実施（毎月）

事務局 徳充会 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2019年度のトピックス、実績

- ① 業務標準化：部内業務のマニュアルの整備、データの一元化を図る。
- ② 改正消費税施行への対応
（会計システムの更新、消費税・物価額増による経費調整、業務委託等見直し）
- ③ 徳充会中期計画書を策定（2020年～2022年）

■事業報告

- ① 会計・請求業務
- ② 補助金申請
- ③ 地域における公益的取り組み（新規提案：10月より）
- ④ 新規事業・取り組みの提案
- ⑤ 理事会・評議員会開催（6月、3月）
・理事・監事の改選
- ⑥ 法人登記手続き（資産総額変更、理事長登記）
- ⑦ 指導監査の対応
・石川県厚生政策課
（実地監査9施設、書面監査3施設）

事務局 アドボカシー室

■部門代表者

池田 まり子

■2019年度のトピックス、実績

「ニコリほっと」の取り組みを実施した。

各事業所に投函箱を設置し、職員が日常生活の中で「ニコリ」と笑顔になった事、「ほっと」安心した出来事などを投函し、報告した。

開催日	内容
4月	投函箱の設置、「ニコリほっと」のポスターを掲示
9月・2月	事業所の施設長と面談
10月・4月	部長会議に報告

■事業報告

- ① 半年に一度、各施設で「にこりホット」の件数を集計した。今年度は計 135 件の投函があった。
また、投函された事例は会議・朝礼の場で公表し全体に共有した。結果、他者の長所に気づきやすくなり、自分を顧みて今後につなげるプラス思考を養うことができた。今後も前向きに取り組みを継続していきたい。
- ② 法人内の事業所で接遇の講義を行った。

教育研修委員会

■委員長

畑中 浩樹

■2019年度のトピックス、実績

①役職者研修

	開催日	内容
第1回	7/10	役職者研修 理事長講義
第2回	8/5	役職者研修 経営戦略(財務状況)
第3回	9/22	役職者研修 考課者研修

- ②新人職員フォローアップ研修
- ③ストレスマネジメント研修
- ④介護福祉士試験対策講座（董仙会合同）

■事業報告

- ① 役職者研修を体系化した。
- ② 一部研修の動画配信を実施した。

福利厚生委員会

■委員長

表 晃一

■2019年度のトピックス、実績

2019年度 委員会回数 10回を実施した。

	開催日	内容
第1回	10/26~10/27	伊勢旅行企画（参加 32名）
第2回	11/2~11/3	東京旅行企画（参加 10名）
第3回	2020/2/1	レク企画 ボウリング&食事会 （参加者 51名）

■事業報告

- ① 旅行企画について職員全体にアンケートをとり職員のニーズに合った旅行を企画・実施することに努めた。
- ② レク企画では、ボウリングと食事会を同日に実施し、職員の交流を深めた。
- ③ 行事助成金の使用率は47.2%であった。前年度使用率の45.9%を上回った。

事例研究大会

■委員長

北野 正敏

■2019年度のトピックス、実績

大会テーマは年度方針と同じ「生産性を向上せよ」とし、サブテーマを「一人ひとりの知識と資質向上」とした。

発表大会は2020年2月29日（土）に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの発生、感染および拡大防止等により、大会開催は中止とし、冊子配布のみとした。

■事業報告

- ① 提出事例は67事例と昨年度より5事例減少、テーマに沿った事例作成が難しかった。テーマ選定については十分な検討が必要。
- ② チーム作成と個人作成の割合が障がい者・高齢者の其々の部門で片寄りがみられ、全員が取り組む形としての事例発表について課題が残る。



2019年7月18日 脳活アイス販売開始